



慢性腎臓病（CKD）に関する 患者調査

2026年1月

アストラゼネカ株式会社

目次

調査概要

P.3-5

調査結果サマリー

P.6-7

スクリーニング調査結果

P.8-11

本調査結果①健康診断の検査項目への理解度

P.12-16

本調査結果②CKD患者さんの診断～治療

P.17-20

本調査結果③健診における腎機能検査への理解度

(高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さん)

P.21-25

本調査結果④CKDについての理解度

P.26-36

回答者プロフィール

P.37-41



調査概要（スクリーニング調査）

調査エリア	全国47都道府県
調査対象者	35歳～74歳の男女
回答者数	30,000名（35～39歳：3,186名、40代：7,696名、50代：8,293名、60代：6,822名、70歳～74歳：4,003名） ※年代別の回答者数は総務省 住民基本台帳（令和6年1月）の人口動態を元に人口構成比を算出
調査期間	2024年10月23日(水)～10月24日(木)
調査機関	株式会社マクロミルケアネット
調査主体	アストラゼネカ株式会社



調査概要（本調査）

調査目的	CKDに対する患者さんの認識およびCKDの早期発見の指標となる健診項目（数値）に対する理解度を把握する
調査項目	・腎機能検査（eGFR、尿蛋白）とその他の検査（空腹時血糖値、HbA1c、血圧）の認知度 ・CKDの診断きっかけ、診断時にあった症状、受けている治療 ・健康診断の腎機能検査で異常が出たことはあるか、異常な場合の受診意向、理由 ・腎機能低下の自覚症状だと思う項目、腎機能に悪影響を及ぼすと思う病気や状態・生活習慣 ・CKDになるとリスクが上がると思う状態や病気、血液透析に必要なと思う通院頻度・所要時間 など
調査エリア	全国47都道府県
調査対象者	高血圧症・糖尿病・CKD・心疾患・脳卒中のいずれかに罹患または経験したことがある35歳～74歳の男女 （対象外：スクリーニング調査で「人工透析中の人・腎移植を受けた」または「健診を過去5年以内には受けていない」と回答した人）
回答者数	865名（35～39歳：109名、40代：216名、50代：219名、60代：213名、70歳～74歳：108名） （高血圧症629名、糖尿病196名、CKD150名、心疾患97名、脳卒中41名、健診の腎機能で異常が出たことがある人※ 126名 を含む） ※CKDではないと回答した人のうち、健康診断で腎機能検査の結果に異常が出たことがあると回答した人（腎機能検査の異常：血液検査でeGFR（イージーエフアール）値が59以下、または血清クレアチニン値（Cr）が男性1.2mg/dl超、女性1.0mg/dl超、または尿検査で尿蛋白が陽性（1+/2+/3+）
調査期間	2024年11月5日(火)～11月7日(木)
調査機関	株式会社マクロミルケアネット
調査監修	埼玉医科大学 腎臓内科 教授 岡田 浩一 先生
調査主体	アストラゼネカ株式会社





調査結果サマリー



調査結果サマリー

①健康診断の検査項目への理解度	②CKD患者さんの診断～治療	③健診における腎機能検査への理解度 (高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さん)	④CKDについての理解度
「eGFR※1」を認識していた人の割合は、高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さんでは19%、CKD患者さんでは64%で、ともに比較した腎機能がわかる検査項目のなかで最も低かった - 腎機能がわかる検査項目として、高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さんが選択した割合が最も高かったのは、別の臓器の検査項目（γ-GTP※2）だった（36%） - CKD患者さんの72%は自身のeGFRの値を把握していた一方で、「わからない」と回答した人が28%いた - 高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さんでは、自身のeGFR値について64%が「わからない」と回答した - 自身の病気の検査値の把握度について、高血圧症患者さん、糖尿病患者さんと比較すると「CKD患者さんのeGFR」72%が最も低かった（わからない28%）	- CKDと診断されたきっかけで回答の割合が最も高かったのは、「健康診断・人間ドックでの検査値異常をきっかけに受診し、診断された」48%だった - 診断時「ステージ3※3」だったCKD患者さんのうち、現在「ステージ1～3」と回答した割合は72%、現在「ステージ4」あるいは「5」と回答した割合は29%だった - CKD患者さんが「現在受けている治療」と「そのうちCKDの治療だと思うもの」では、いずれも「薬物療法」を選んだ人の割合が最も高かった（現在受けている治療では54%、そのうちCKDの治療だと思うものでは52%）	- 健診の腎機能検査で異常が出た時、「医療従事者から説明があった」と回答した人の割合は65%で最も高かった。一方で、次に割合が高かったのは、「説明はなく相談もしなかった」の21%だった - 健診の腎機能検査で異常が出た後、「受診した」と回答した人の割合は56%で最も高かった。一方、「受診するつもりはない」と回答した人の割合は14%だった - 健診の腎機能検査で異常が出た場合、「自発的に受診したい」と思う人の割合が54%で最も高かった。次に、「医師などから勧められたら受診したいと思う」42%、「受診しないと思う」5%だった	- 高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さんで、それぞれ自身の病気が腎機能に悪影響を及ぼすと知っていた人は46%だった（糖尿病76%、高血圧症40%、心疾患33%、脳卒中17%） - 腎機能に悪影響を及ぼすと思う生活習慣のうち、全年代で選択した人の割合が最も低かったのは「痛み止めの常用」で、年代別にみるととくに70～74歳で最も低かった（8%） - CKDになるとリスクが上がると思う状態や病気の中で、自身の病気や状態を選択できた患者さんは27%だった（「血圧が上がる」を選んだ高血圧症患者さん27%、「心臓の病気になる」を選んだ心疾患患者さん27%、「脳卒中など脳の病気になる」を選んだ脳卒中患者さん20%）

※1 eGFR：推算糸球体ろ過量。GFRと書かれていることもある。腎臓が1分間にどれくらいの血液をろ過して尿を作るかを示す値（参考：NPO法人日本腎臓病協会 慢性腎臓病とは）

※2 γ-GTP：γ-GTともいう。胆管に分布する酵素の一種で、飲酒量が多いときや胆道系疾患などで値が上昇する（参考：厚生労働省 e-ヘルスネット γ-GT）

※3 CKDのステージ：CKDはGFRの数値によって1、2、3a、3b、4、5のステージ（病期）に分けられる。ステージは数時が増えるほど重症となり、3aでは腎機能が軽度～中等度低下、3bは中等度～高度低下の状態



スクリーニング調査結果

※本調査回答者の結果
(本調査実施条件以外の項目は除外)

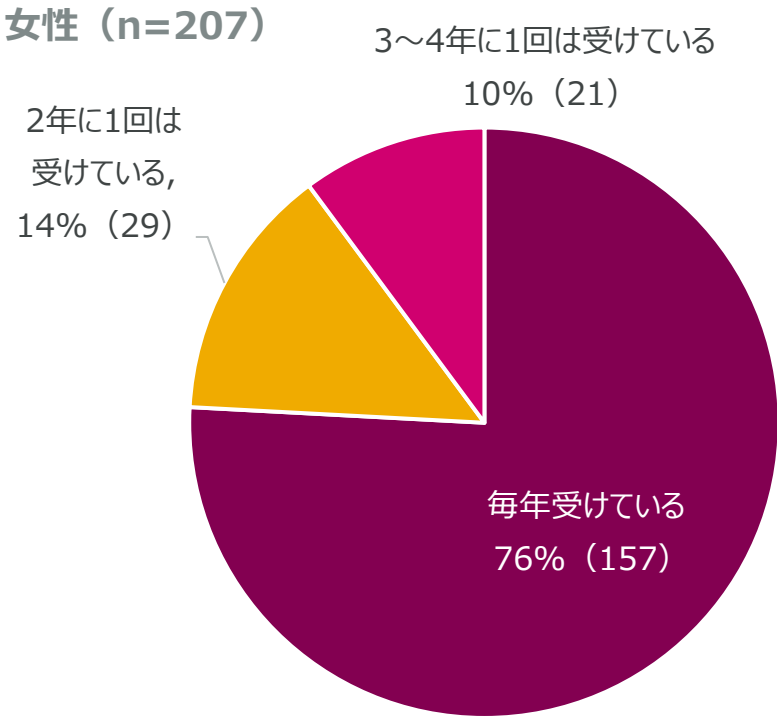
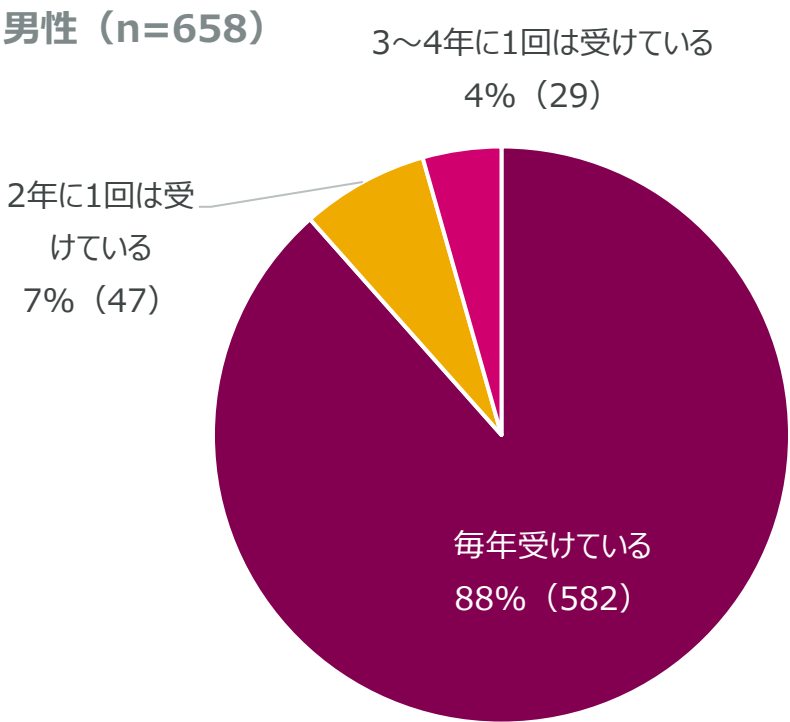


健康診断を受けている頻度（性別）

Q.あなたは定期的に健康診断を受けていますか。最もあてはまる頻度をお知らせください。（回答はひとつ）

n=865

※健康診断での検査項目の把握度を調査するため、「過去5年以内には受けていない」は本調査対象外とした
参考）スクリーニング調査での割合（n=30,000）
毎年受けている 70%、2年に1回は受けている 7%、3～4年に1回は受けている 6%、過去5年以内には受けていない 18%



※構成比は小数点以下第1位を四捨五入としているため、計は必ずしも100にならない

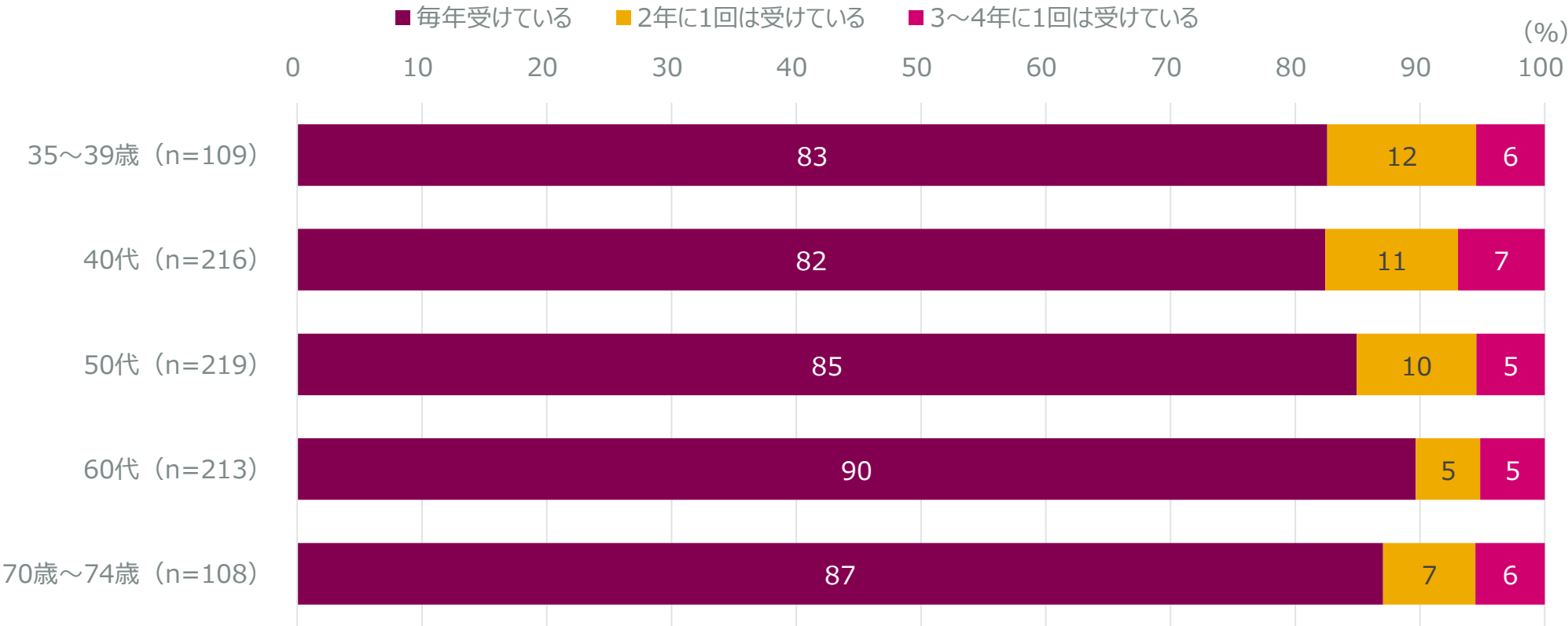


健康診断を受けている頻度（年代別）

Q.あなたは定期的に健康診断を受けていますか。最もあてはまる頻度をお知らせください。（回答はひとつ）

n=865

※健康診断での検査項目の把握度を調査するため、「過去5年以内には受けていない」は本調査対象外とした
参考）スクリーニング調査での割合（n=30,000）
毎年受けている 70%、2年に1回は受けている 7%、3～4年に1回は受けている 6%、過去5年以内には受けていない 18%



健康診断の腎機能で要受診になったことはあるか

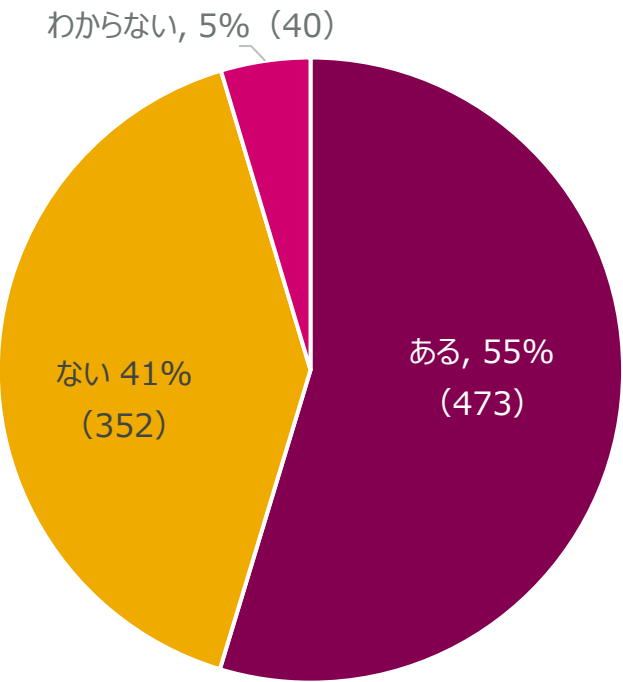
Q.健康診断で腎機能について、「要再検査」「要精密検査」「要治療」「要専門医受診」等、受診を促す結果が出たことはありますか。

※直近の健康診断結果をお知らせください（回答はひとつ）

※健康診断での検査項目の把握度を調査するため、「過去5年以内には受けていない」は本調査対象外とした

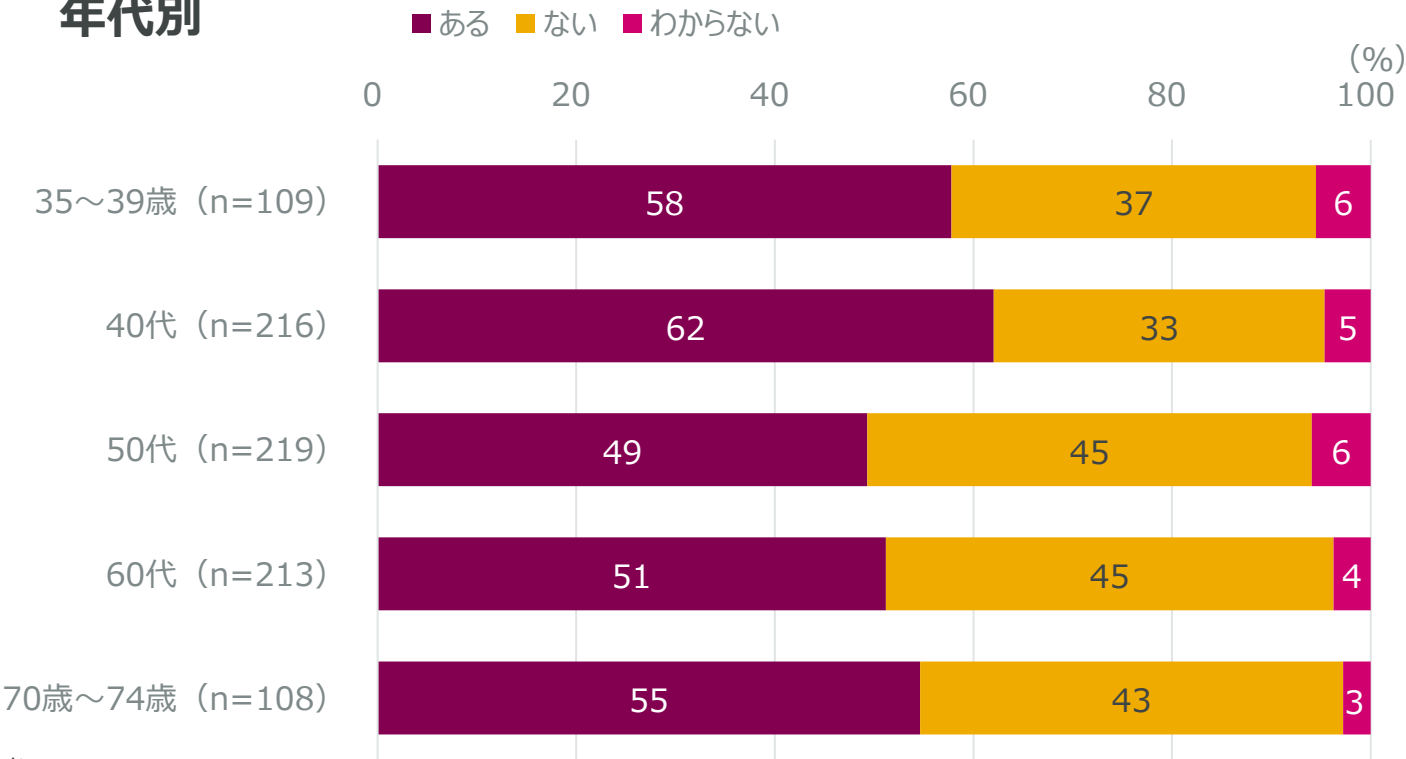
n=865

全体



※構成比は小数点以下第1位を四捨五入としているため、計は必ずしも100にならない

年代別



本調査結果①

健康診断の検査項目への理解度



腎機能がわかる検査項目だと思っているもの

- 「eGFR※1」を認識していた人の割合は、高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さんでは19%、CKD患者さんでは64%で、ともに比較した腎機能がわかる検査項目のなかで最も低かった
- 腎機能がわかる検査項目として、高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さんが選択した割合が最も高かったのは、別の臓器の検査項目（γ-GTP※2）だった（36%）

Q.以下の検査項目のうち、腎機能がわかる項目だと思うものをすべて選択してください。（回答はいくつでも）

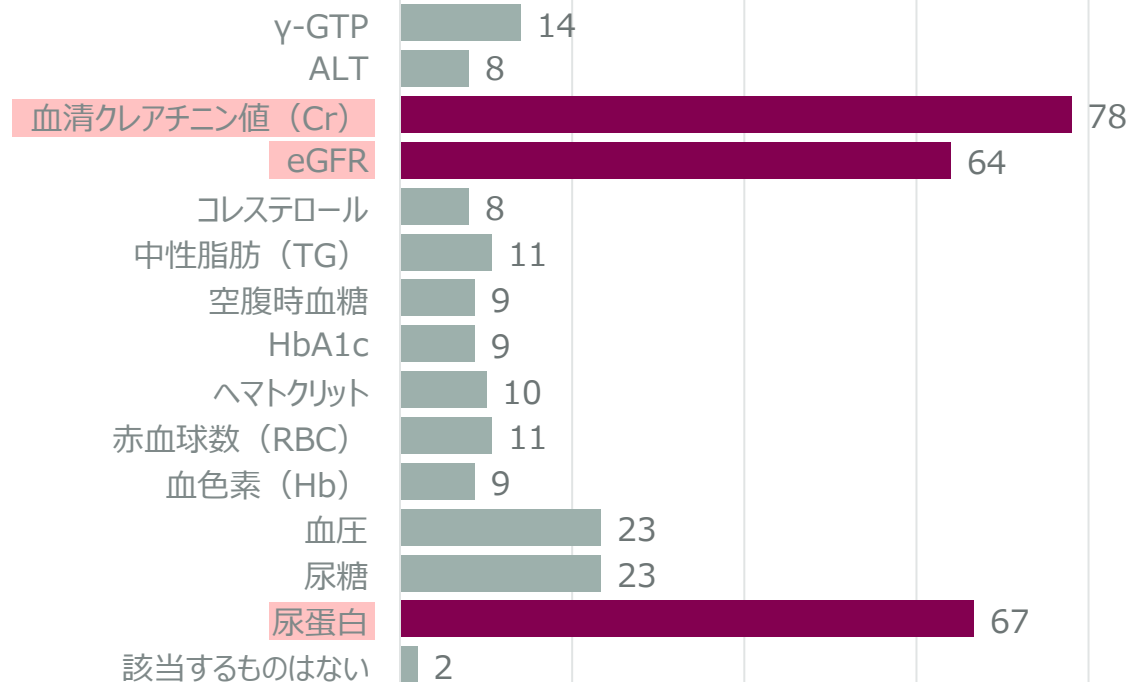
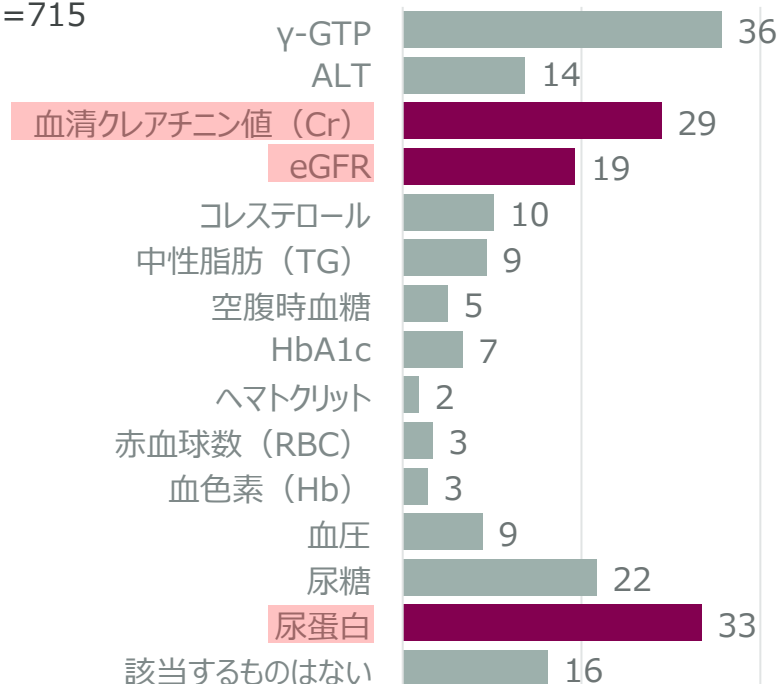
実際に腎機能がわかる検査項目

高血圧症/糖尿病/
心疾患/脳卒中患者さん
n=715

(%)

CKD患者さん
n=150

(%)



※1 eGFR：推算糸球体ろ過量。GFRと書かれていることもある。腎臓が1分間にどれくらいの血液をろ過して尿を作るかを示す値（参考：NPO法人日本腎臓病協会 慢性腎臓病とは）

※2 γ-GTP：γ-GTともいう。胆管に分布する酵素の一種で、飲酒量が多いときや胆道系疾患などで値が上昇する（参考：厚生労働省 e-ヘルスネット γ-GT）



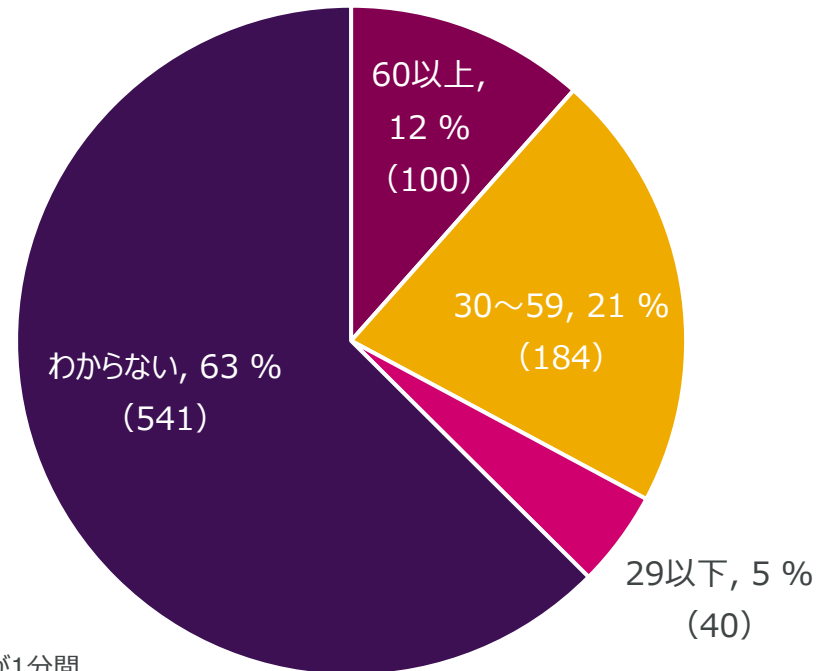
eGFRの把握度（全体）

- 自身の「eGFR※1」について、回答した人の割合が最も高かったのは「わからない」の63%だった

Q.ご自身の現在のeGFR（イージーエフアール）値がどのくらいかご存じですか。わかる方はだいたいこれくらいだと思う選択肢を選んでください。

※eGFR（イージーエフアール）：推算糸球体ろ過量。GFR推算値と呼ぶこともあります※医療機関などで測定した数値を参考にお知らせください（回答はひとつ）

n=865



※1 eGFR：推算糸球体ろ過量。GFRと書かれていることもある。腎臓が1分間にどれくらいの血液をろ過して尿を作れるかを示す値（参考：NPO法人日本腎臓病協会 慢性腎臓病とは）

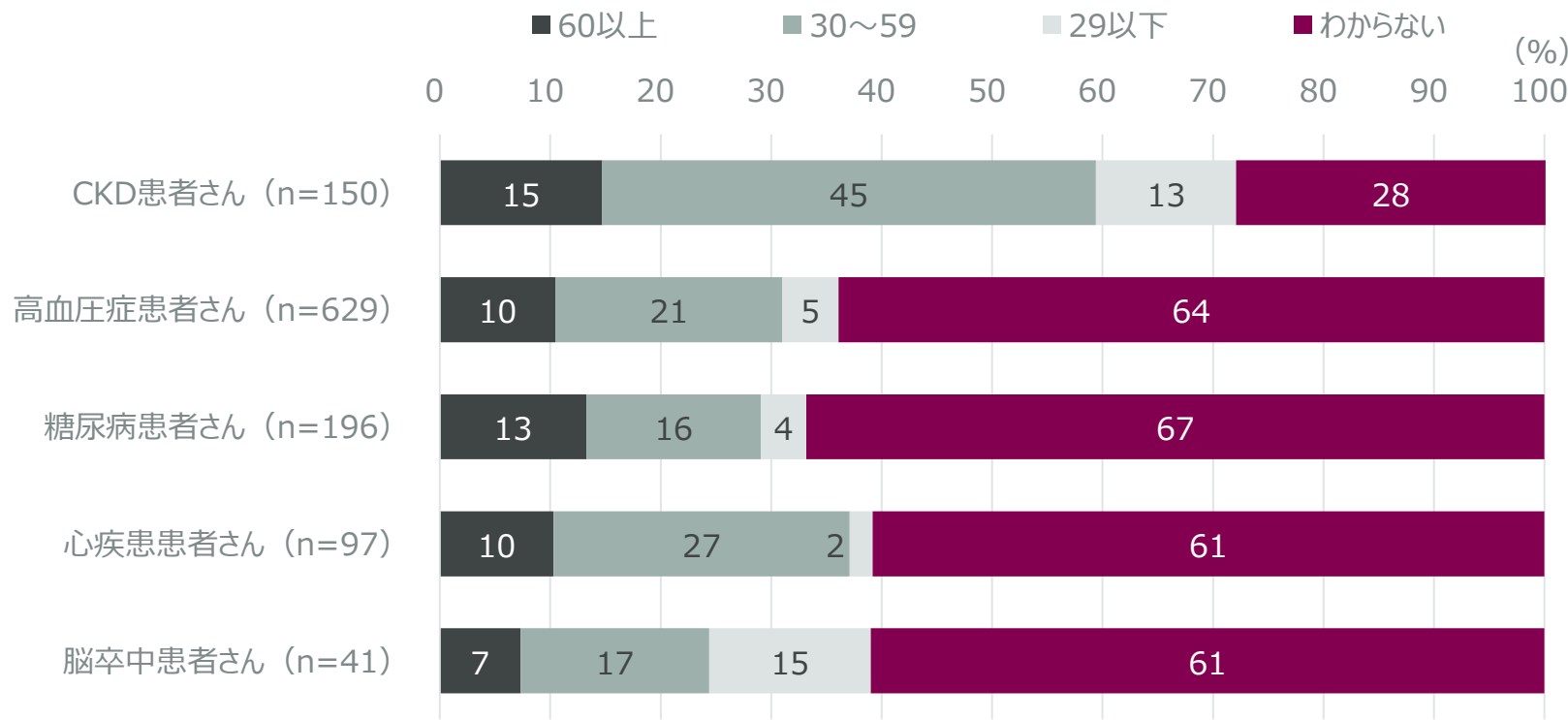
※構成比は小数点以下第1位を四捨五入としているため、計は必ずしも100にならない



eGFRの把握度（罹患状況別）

- CKD患者さんの72%は自身のeGFR※1の値を把握していた一方で、「わからない」と回答した人が28%いた
- 高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さんでは、自身のeGFR値について64%が「わからない」と回答した
- 「わからない」と回答した人の割合を疾患別にみると、最も高かったのは糖尿病患者さんの67%だった

Q.ご自身の現在のeGFR（イージーエフアール）値がどのくらいかご存じですか。わかる方はだいたいこれくらいだと思う選択肢を選んでください。
※eGFR（イージーエフアール）：推算糸球体ろ過量。GFR推算値と呼ぶこともあります※医療機関などで測定した数値を参考にお知らせください（回答はひとつ）



高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さんが「わからない」を選択した割合		
	サンプル数	「わからない」の選択数 (%)
高血圧症患者さん	629	402 (64%)
糖尿病患者さん	196	131 (67%)
心疾患患者さん	97	59 (61%)
脳卒中患者さん	41	25 (61%)
計	963	617 (64%)

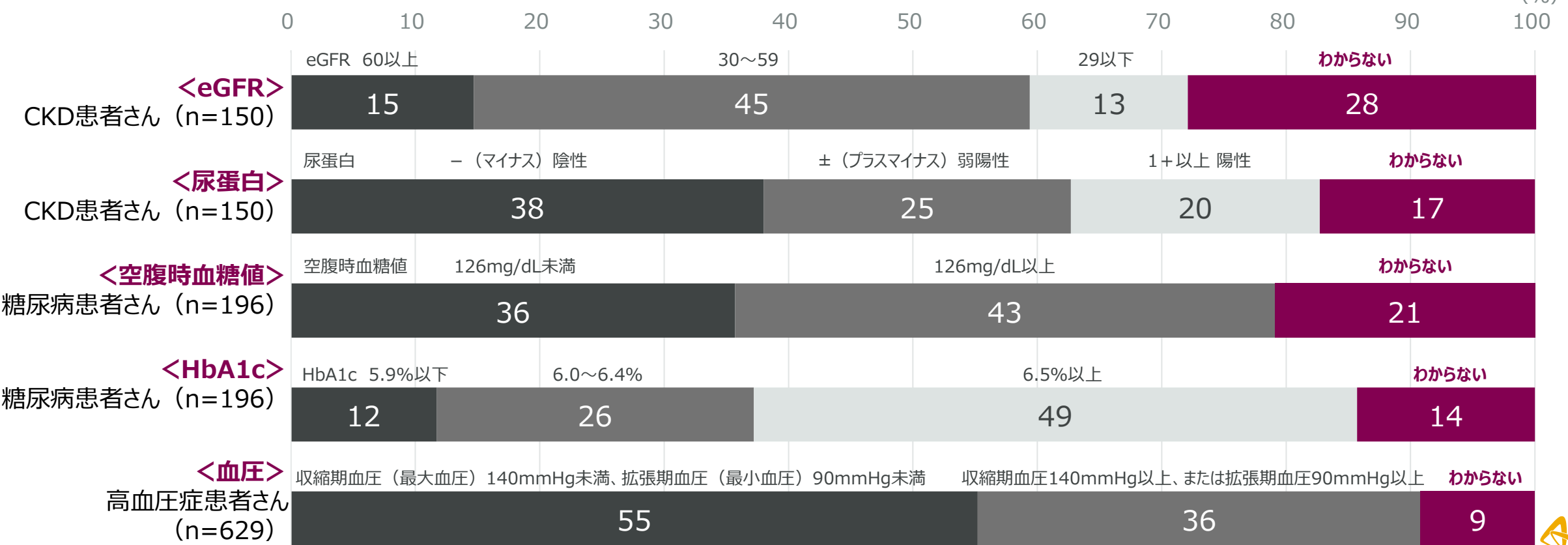
* 複数の疾患に罹患している患者さんの回答は、疾患ごとに1サンプルとして集計した。各疾患のサンプル数とそのうち単独罹患数【サンプル数（単独罹患数）：CKD150（59）、高血圧症629（451）、糖尿病196（98）、心疾患97（50）、脳卒中41（11）】



自身の病気の検査値の把握度（罹患状況別）

- 自身の病気の検査値の把握度について、高血圧症患者さん、糖尿病患者さんと比較すると「CKD患者さんのeGFR※1」72%が最も低かった（わからない28%）
- CKD患者さん、高血圧症患者さん、糖尿病患者さんのなかで、自身の病気の検査値の把握度が最も高かったのは、「高血圧症患者さんの血圧」91%だった（わからない9%）

Q.ご自身の現在の血圧/HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）/空腹時血糖値/尿蛋白/eGFR（イージーエフアール）値がどのくらいご存じですか。わかる方はだいたいこれくらいだと思う選択肢を選んでください。



本調査結果②

CKD患者さんの診断～治療

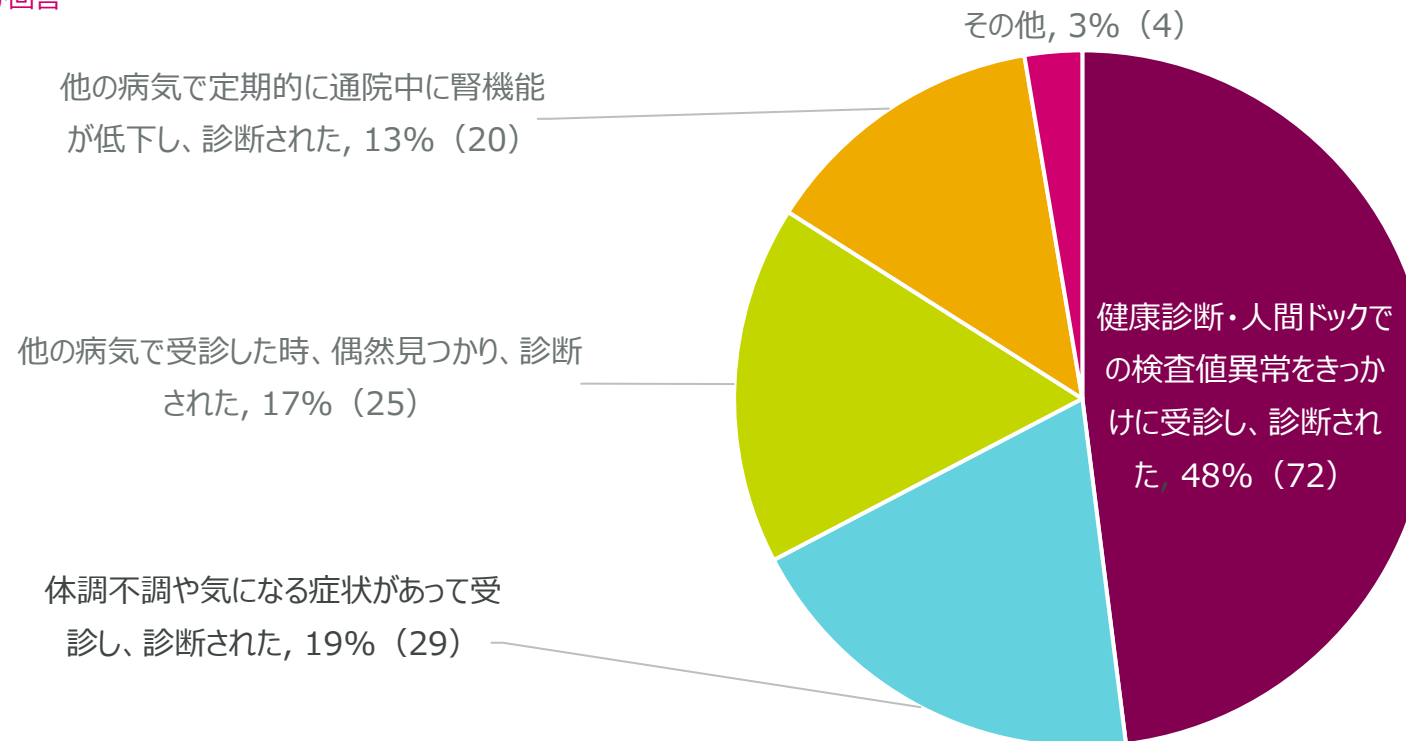


CKDと診断されたきっかけ

- CKDと診断されたきっかけで回答の割合が最も高かったのは、「健康診断・人間ドックでの検査値異常をきっかけに受診し、診断された」48%だった

Q.慢性腎臓病（CKD）があると回答された方にお聞きます。慢性腎臓病（CKD）と診断されたきっかけについて、最もあてはまるものを教えてください。（回答はひとつ）

n=150 ※慢性腎臓病の方が回答



CKD診断時のステージと現在のステージ

- 診断時「ステージ3」だったCKD患者さんのうち、現在「ステージ1～3」と回答した割合は72%、現在「ステージ4」あるいは「5」と回答した割合は29%だった

Q.診断時と現在それぞれの慢性腎臓病（CKD）のステージ（腎機能障害の区分）について、最もあてはまるものを教えてください。（回答はひとつずつ）※お分りの範囲でお知らせください

n=150

※慢性腎臓病の方が回答

■ 現在 ステージ1（eGFR 90以上）

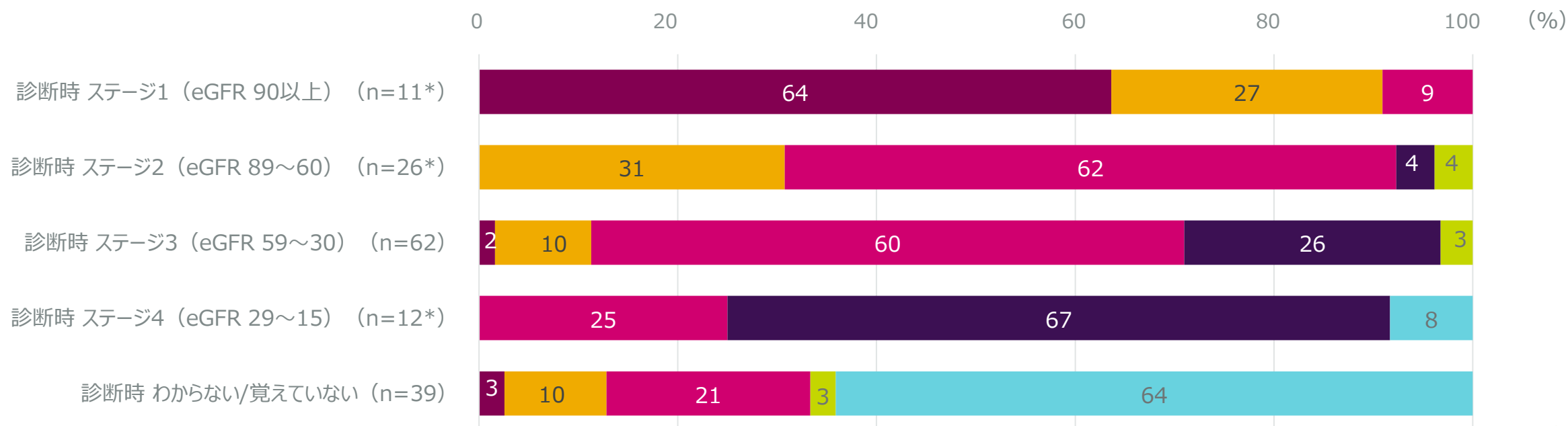
■ 現在 ステージ4（eGFR 29～15）

■ 現在 ステージ2（eGFR 89～60）

■ 現在 ステージ5（eGFR 15未満）

■ 現在 ステージ3（eGFR 59～30）

■ 現在 わからない/覚えていない



※n<30の箇所(*)は参考値



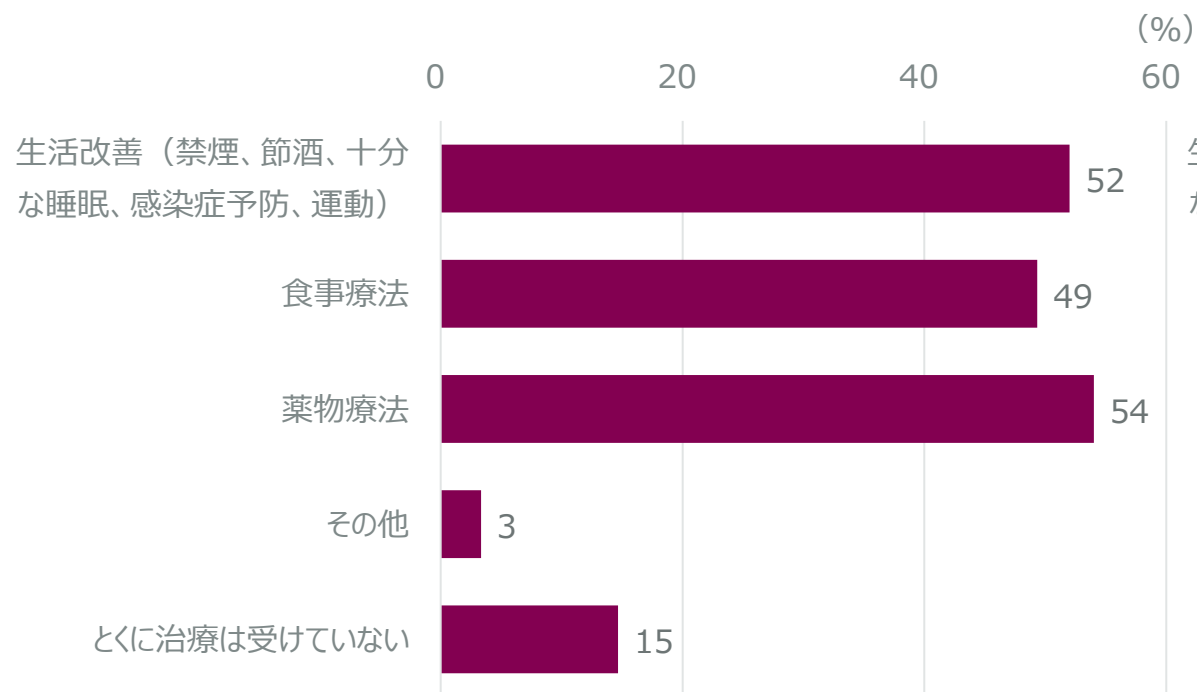
CKD患者さんが現在受けている治療とそのうちCKDの治療だと思うもの

- CKD患者さんが「現在受けている治療」と「そのうちCKDの治療だと思うもの」では、いずれも「薬物療法」を選んだ人の割合が最も高かった（現在受けている治療では54%、そのうちCKDの治療だと思うものでは52%）

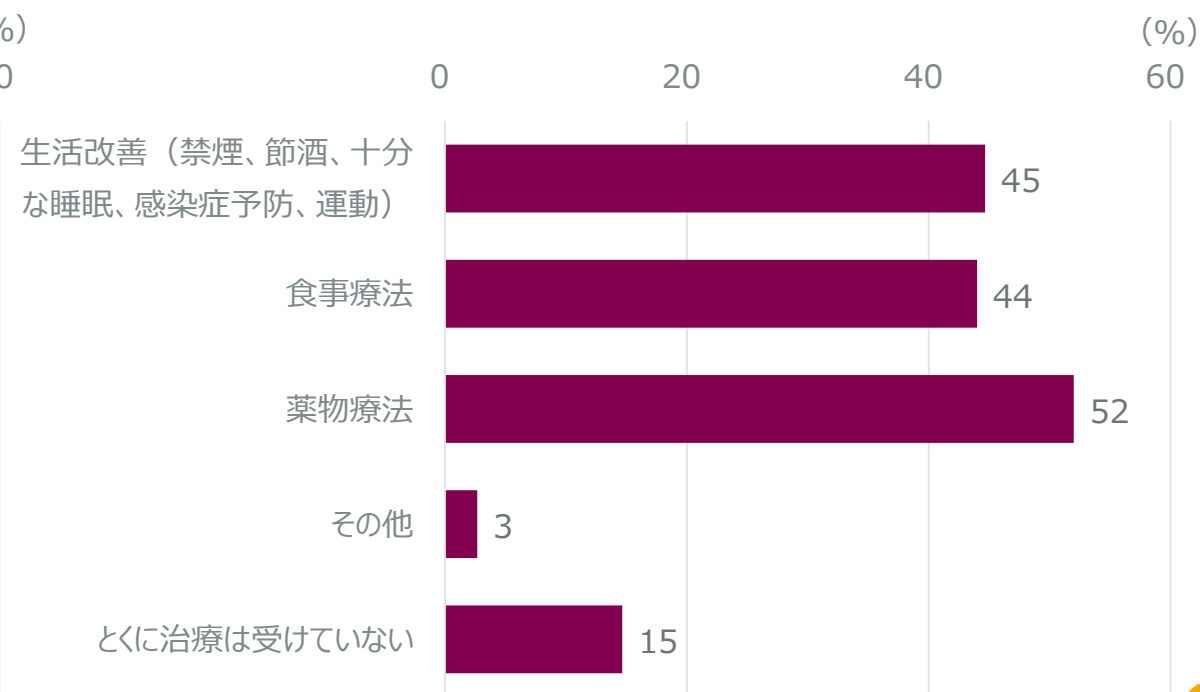
Q.あなたが現在受けている治療、そのうち、慢性腎臓病（CKD）の治療だと思うものそれぞれについて、あてはまるものをすべて教えてください。（回答はいくつでも）

n=150 ※慢性腎臓病の方が回答

現在受けている治療



現在受けている治療のうちCKDの治療だと思うもの



本調査結果③

健診における腎機能検査への理解度
(高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さん)

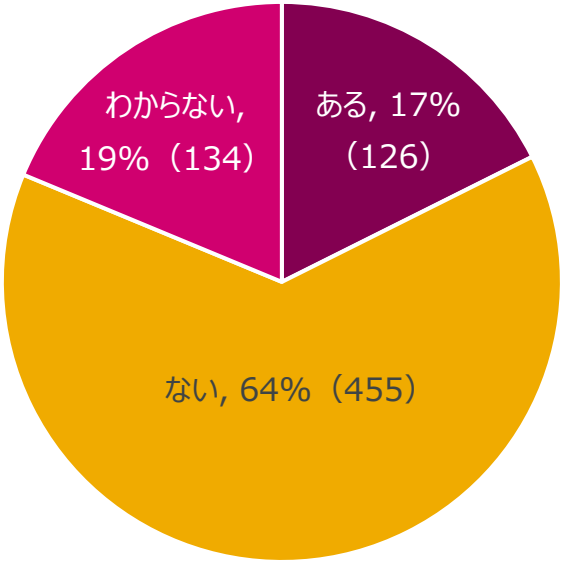


健診の腎機能検査で異常が出たことはあるか（全体、年代別）

- 健診の腎機能検査で異常が「出たことがある」人の割合は17%、「ない」人の割合は64%だった
- 年代別にみると、「出たことがある」人の割合は35～39歳で最も高く25%、次に70～74歳の18%だった

Q.健康診断で腎機能検査の結果に異常が出たことはありますか。※腎機能検査の異常：血液検査でeGFR（イージーエフアール）値が59以下、または血清クレアチニン値（Cr）が男性1.2mg/dl超、女性1.0mg/dl超、または尿検査で尿蛋白が陽性（1+/2+/3+）※eGFR（イージーエフアール）：推算糸球体ろ過量。GFR推算値と呼ぶこともあります（回答はひとつ）

n=715 ※慢性腎臓病ではない方が回答



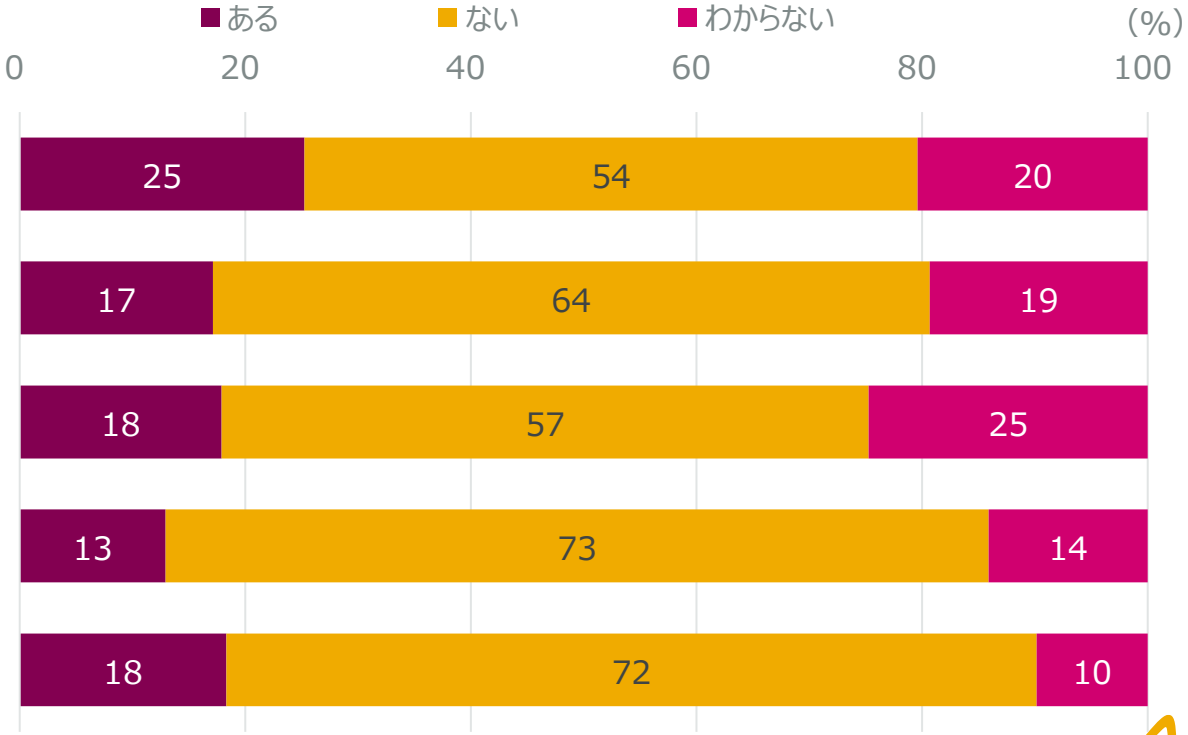
35～39歳 (n=103)

40代 (n=181)

50代 (n=190)

60代 (n=170)

70歳～74歳 (n=71)



※構成比は小数点以下第1位を四捨五入としているため、計は必ずしも100とはならない

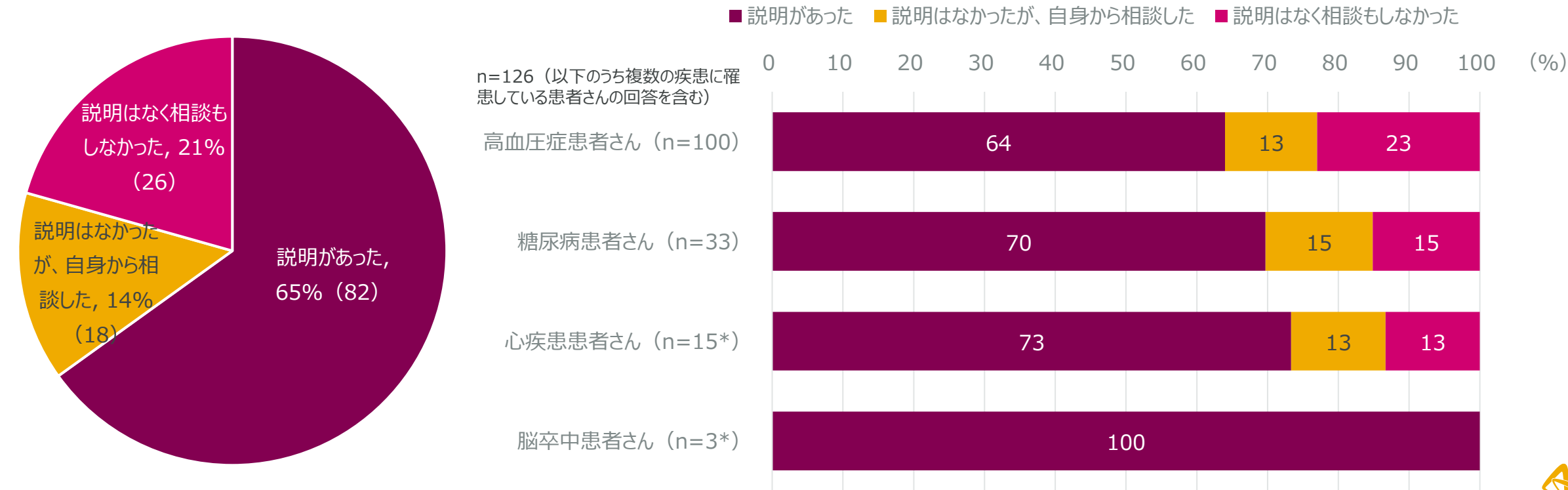


健診の腎機能検査で異常が出た時、医療従事者から説明はあったか

- 健診の腎機能検査で異常が出た時、「医療従事者から説明があった」と回答した人の割合は65%で最も高かった。一方で、次に割合が高かったのは、「説明はなく相談もしなかった」の21%だった
- 罹患状況別にみると、「説明はなく相談もしなかった」人の割合が最も高かったのは「高血圧症患者さん」の23%だった

Q.健康診断で腎機能検査の結果に異常が出た時、健康診断当日や後日、医師や保健師、管理栄養士、看護師から結果の異常について説明はありましたか。最もあてはまるものをお選びください。（回答はひとつ）

n=126 ※慢性腎臓病ではない方、かつ腎機能検査の結果に異常が出たことがある方が回答



※n<30の箇所(*)は参考値

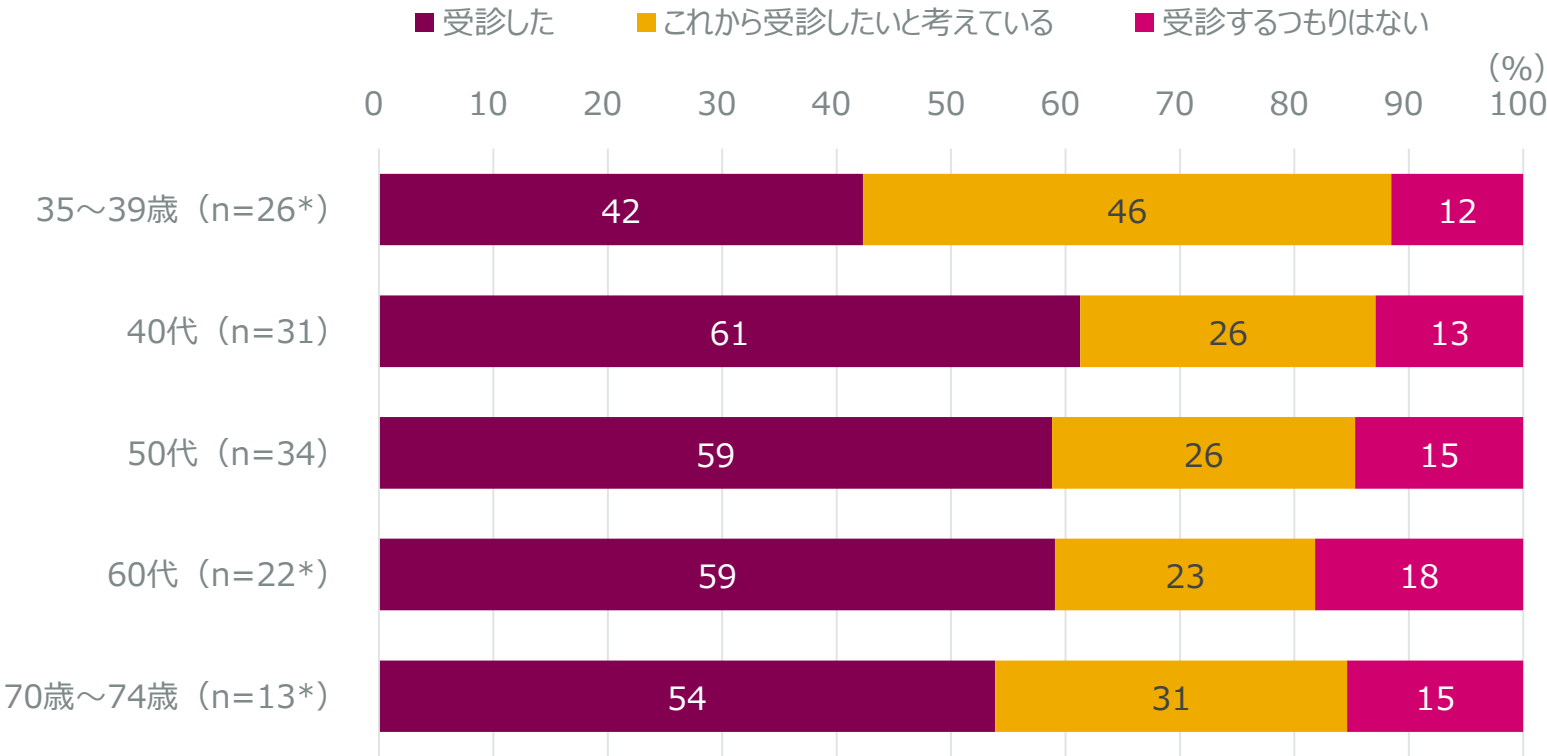
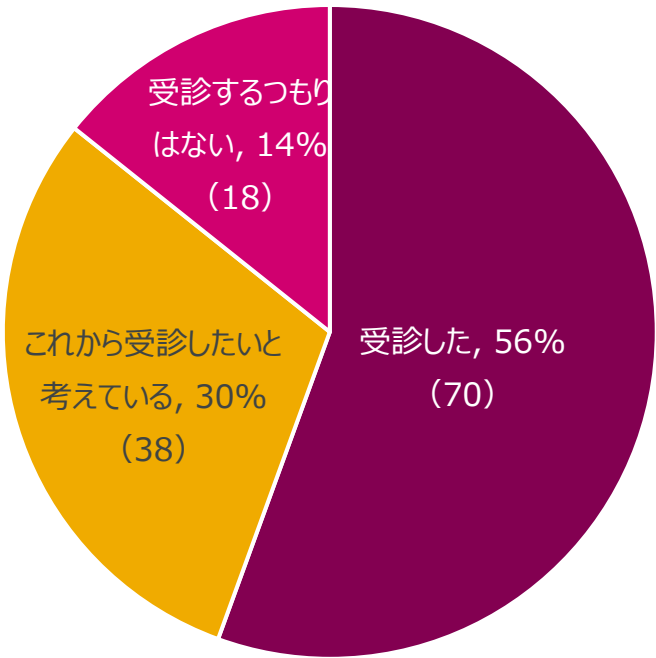


健診の腎機能検査で異常が出た後、受診したか

- 健診の腎機能検査で異常が出た後、「受診した」と回答した人の割合は56%で最も高かった。一方、「受診するつもりはない」と回答した人の割合は14%だった
- 年代別にみると、「受診した」人の割合が最も高かったのは40代の61%で、最も低かったのは35～39歳*の42%だった

Q.健康診断で腎機能検査の結果に異常が出た後、医療機関を受診しましたか。最もあてはまるものをお選びください。（回答はひとつ）

n=126 ※慢性腎臓病ではない方、かつ腎機能検査の結果に異常が出たことがある方が回答

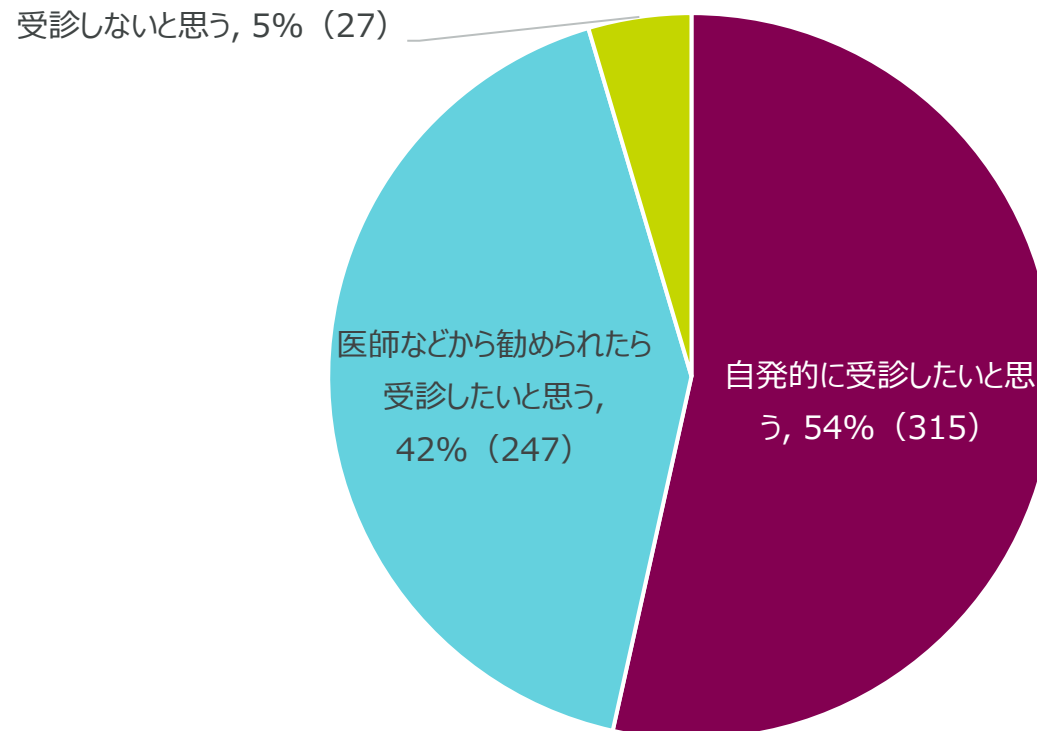


もし、健診の腎機能検査で異常が出たら受診するか

- 健診の腎機能検査で異常が出た場合、「自発的に受診したい」と思う人の割合が54%で最も高かった。次に、「医師などから勧められたら受診したいと思う」42%、「受診しないと思う」5%だった

Q.健康診断で、もし腎機能に異常が出たら医療機関を受診しますか。最も近い考えをお選びください。（回答はひとつ）

n=589 ※慢性腎臓病ではない方、かつ腎機能検査の結果に異常が出たことがない方、もしくはわからない方が回答



※構成比は小数点以下第1位を四捨五入としているため、計は必ずしも100とはならない



本調査結果④

CKDについての理解度

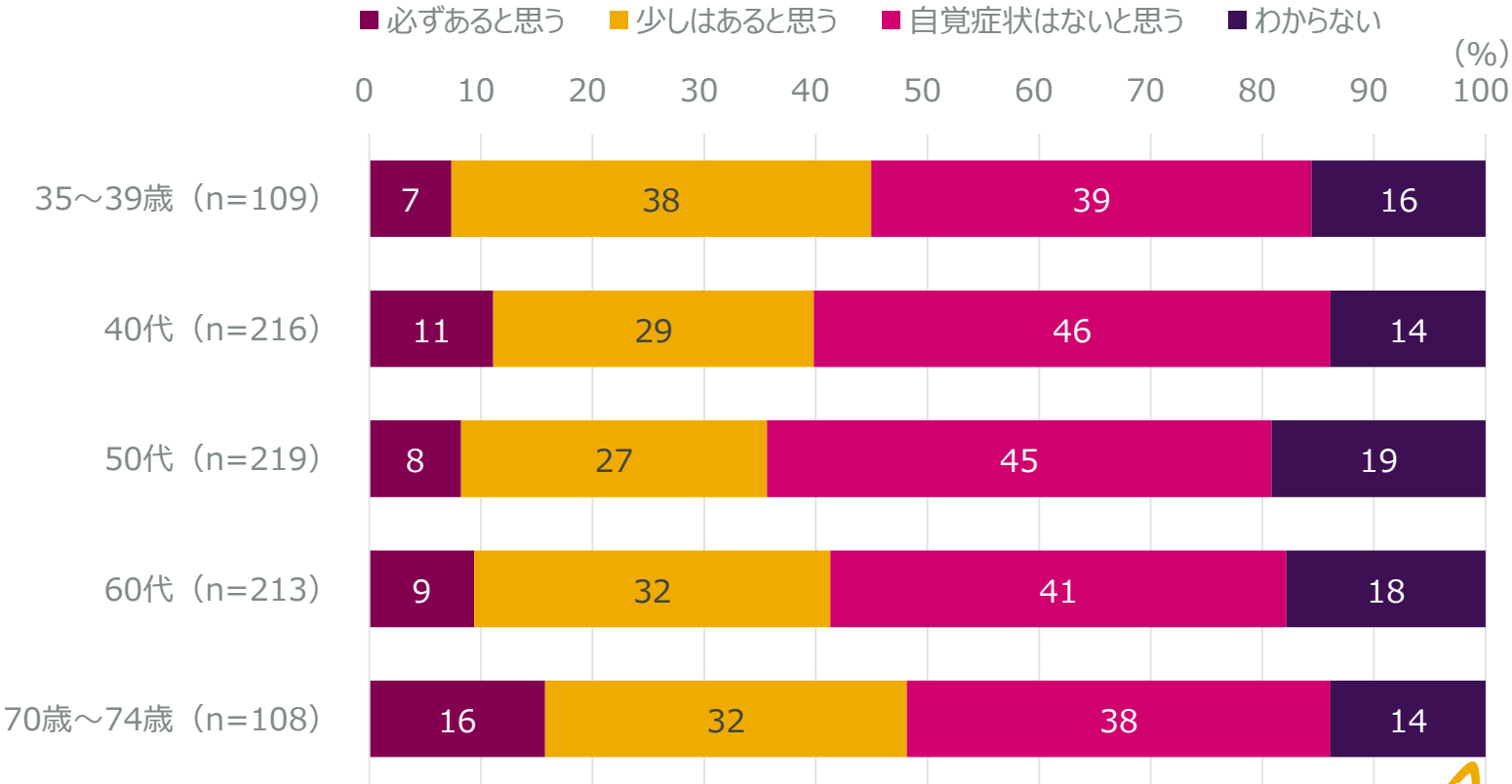
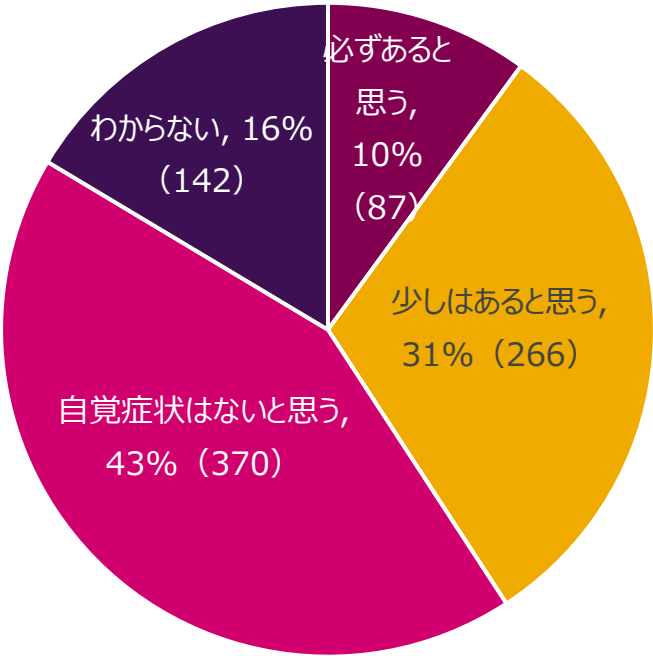


腎機能が低下すると自覚症状はあると思うか

- 腎機能が低下した際の自覚症状については、「自覚症状はないと思う」人の割合が43%で最も高かった。次に、「少しはあると思う」31%、「必ずあると思う」10%だった
- 年代別にみると、「必ずある」と思うの割合が最も高かったのは70～74歳の16%で、最も低かったのは35～39歳の7%だった

Q.腎機能が低下すると自覚症状はあると思いますか。最もあてはまるものをお選びください。（回答はひとつ）

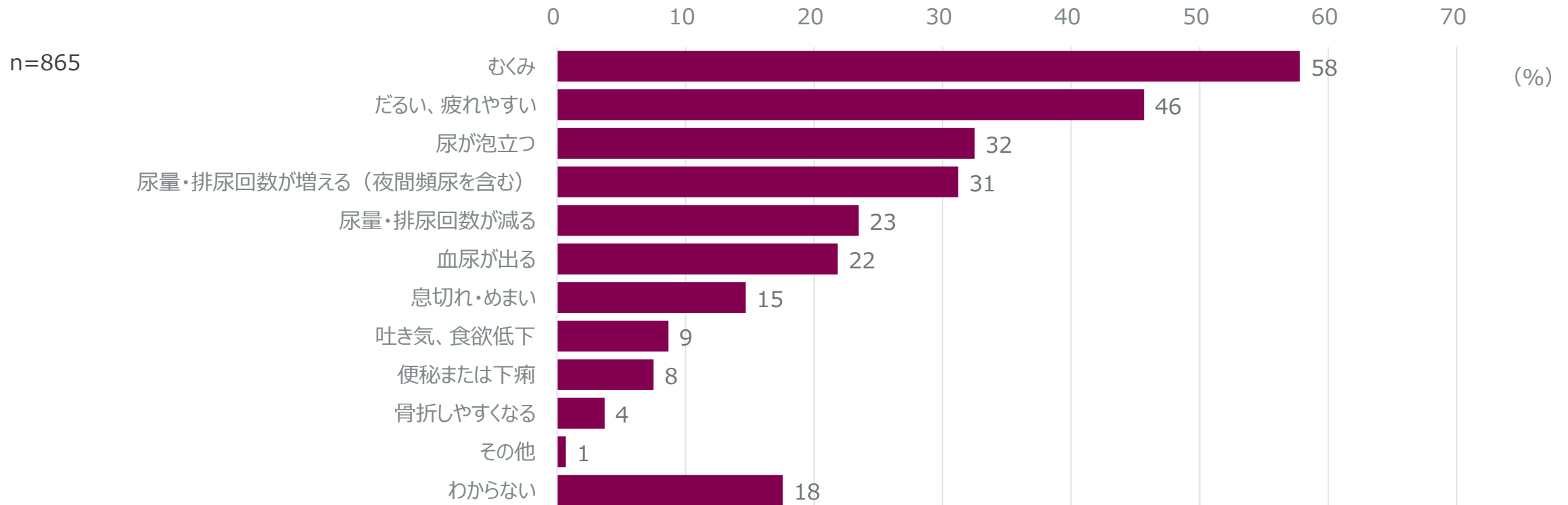
n=865



腎臓に関係すると思う症状

- 腎臓に関係する自覚症状だと思うもので、最も割合が高かったのは、「むくみ」58%、次に「だるい、疲れやすい」46%だった
- 腎臓に関係する自覚症状だと思うもので、最も割合が低かったのは、「骨折しやすくなる」4%だった

Q.腎機能が低下しても早期にはほとんど自覚症状がないと言われています。進行すると自覚症状があらわれますが、腎臓に関係する自覚症状だと思うものについて、あてはまるものを全て教えてください。（回答はいくつでも）※あてはまるものがない方は、その他にご入力ください



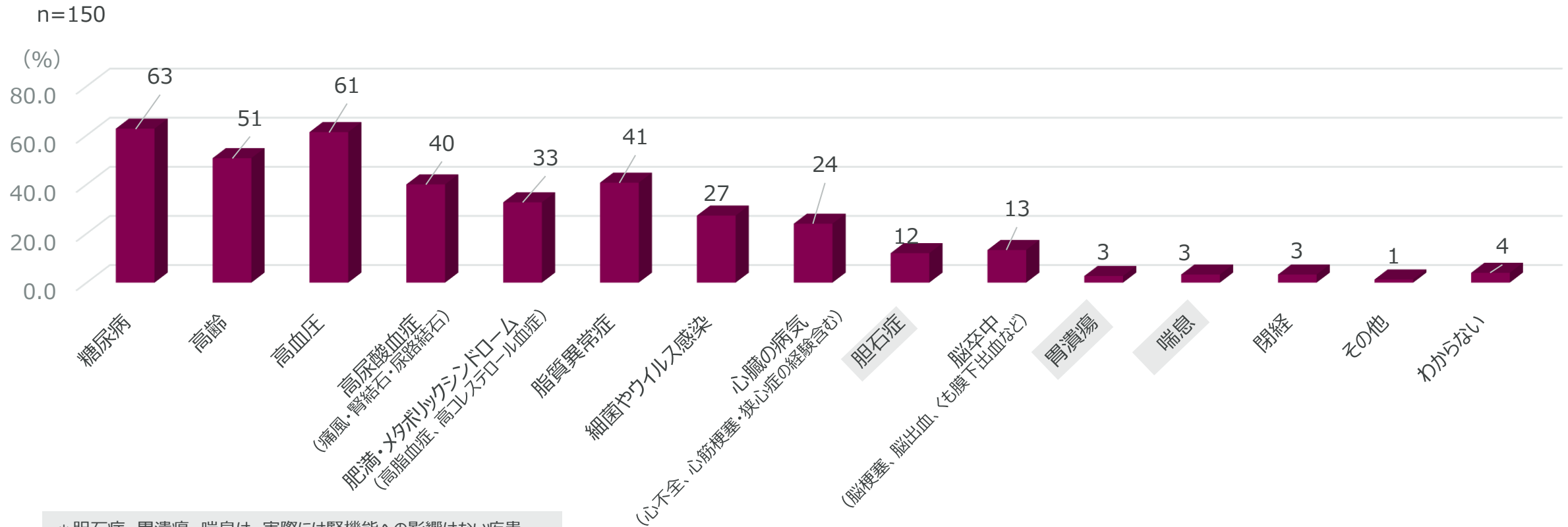
※値の準に降順ソート



腎機能に悪影響を及ぼすと思う病気や状態（CKD患者さん）

- CKD患者さんが、腎機能に悪影響を及ぼすと思う病気や状態のなかで、最も割合が高かったのは「糖尿病」で63%、最も割合が低かったのは「閉経」で3%だった（実際には腎機能への影響はない疾患*は除く）

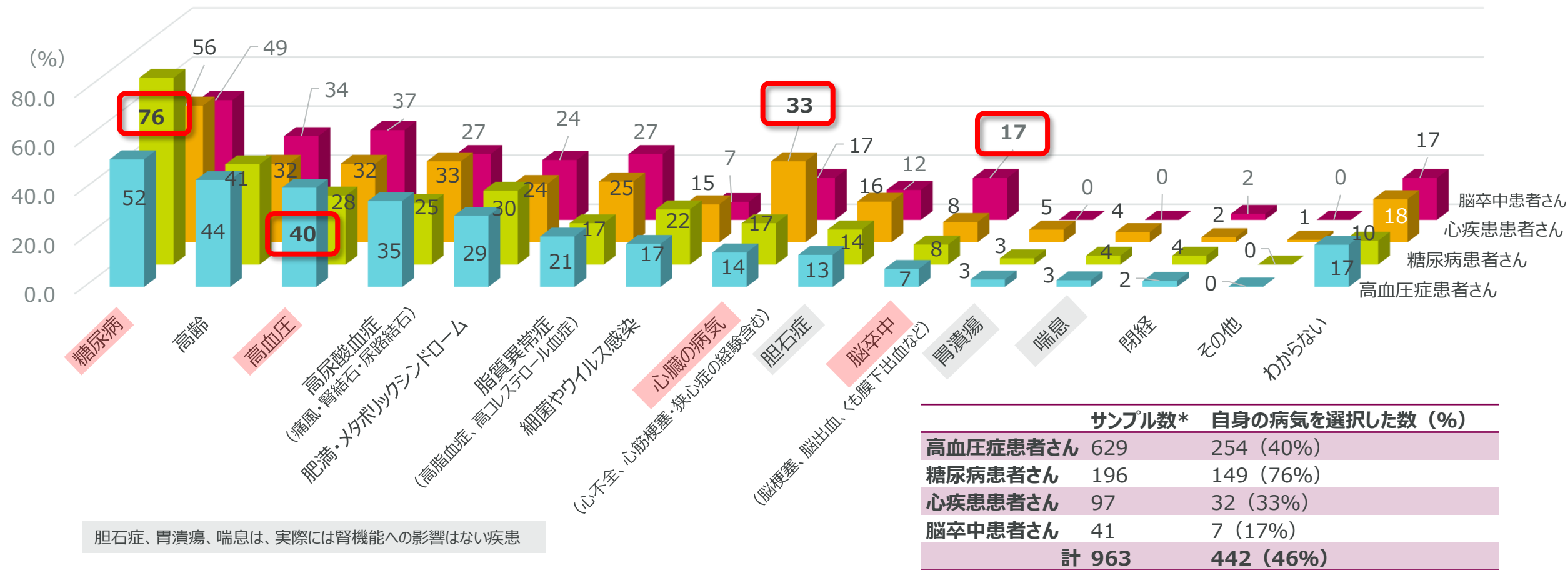
Q.腎機能に悪影響を及ぼすと思う病気や状態について、あてはまるものをすべて選択してください。（回答はいくつでも）



腎機能に悪影響を及ぼすと思う病気や状態（高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さん）

- 高血圧症/糖尿病/心疾患/脳卒中患者さんで、それぞれ自身の病気が腎機能に悪影響を及ぼすと知っていた人は46%だった（糖尿病76%、高血圧症40%、心臓の病気33%、脳卒中17%）

Q.腎機能に悪影響を及ぼすと思う病気や状態について、あてはまるものをすべて選択してください。（回答はいくつでも） n=715



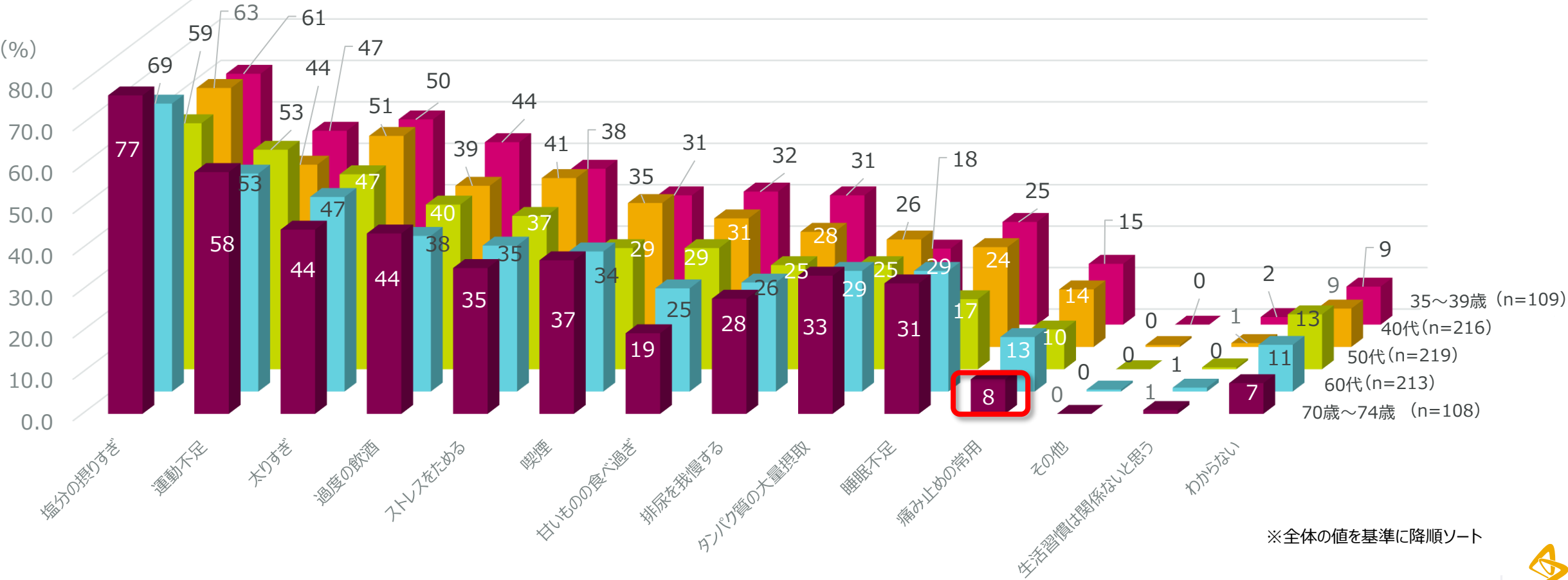
* 複数の疾患に罹患している患者さんの回答は、疾患ごとに1サンプルとして集計した。各疾患のサンプル数とそのうち単独罹患数【サンプル数（単独罹患数）：高血圧症629（451）、糖尿病196（98）、心疾患97（50）、脳卒中41（11）】



腎機能に悪影響を及ぼすと思う生活習慣（年代別）

- 腎機能に悪影響を及ぼすと思う生活習慣のうち、全年代で選択した人の割合が最も高かったのは「塩分の摂りすぎ」だった
- 腎機能に悪影響を及ぼすと思う生活習慣のうち、全年代で選択した人の割合が最も低かったのは「痛み止めの常用」で、年代別にみるとくに70～74歳で最も低かった（8%）

Q.腎機能に悪影響を及ぼすと思う生活習慣について、あてはまるものをすべて選択してください。（回答はいくつでも） n=865



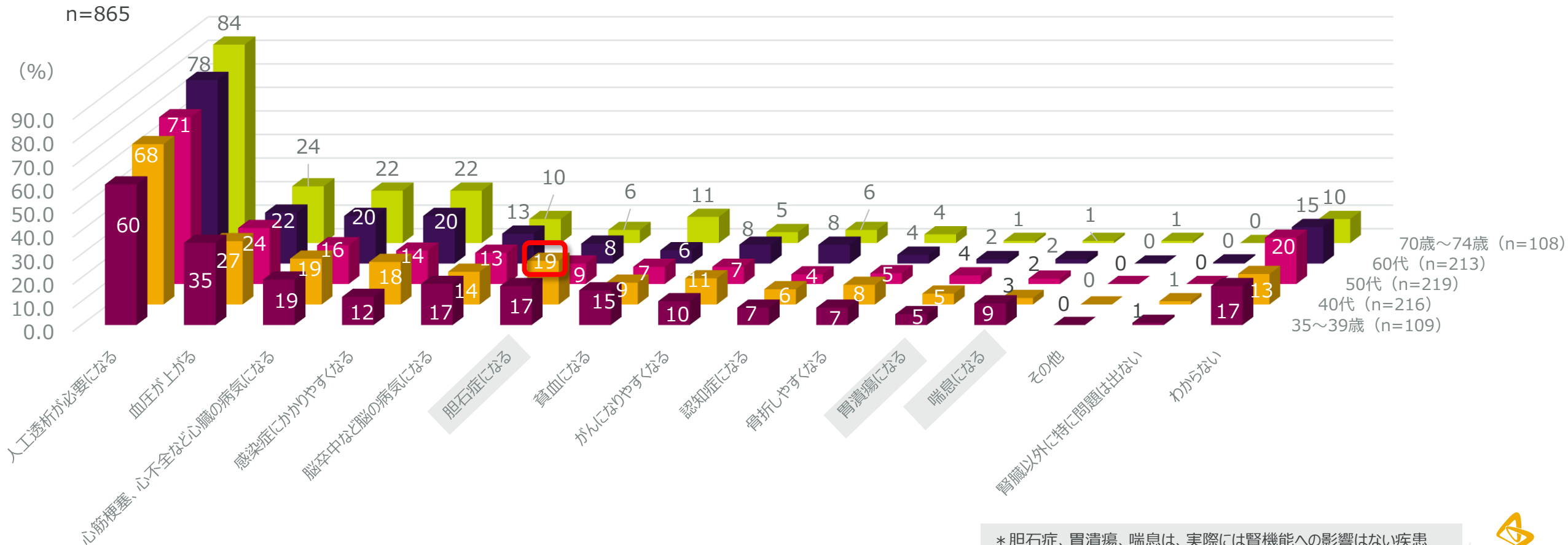
※全体の値を基準に降順ソート



CKDになるとリスクが上がると思う状態や病気（年代別）

- CKDになるとリスクが上がると思う状態や病気では、全年代で「人工透析が必要になる」の割合が最も高かったが、その割合は若齢ほど低く、35～39歳が最も低く（60%）、70～74歳が最も高かった（84%）
- 実際には腎機能に関連しない病気（*グレー箇所）では「胆石症」を選択した人が多く、なかでも40代の19%が最も高かった

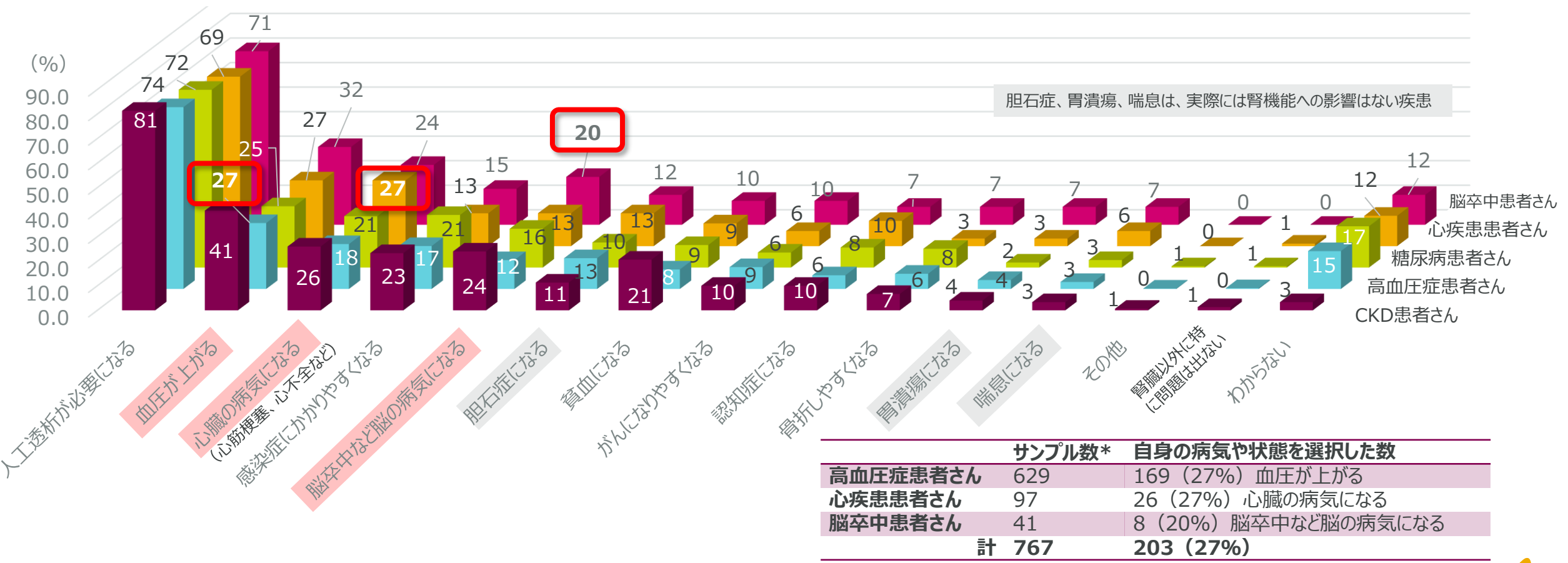
Q.慢性腎臓病（CKD）になるとリスクが上がると思う状態や病気について、あてはまるものをすべて選択してください。（回答はいくつでも）



CKDになるとリスクが上がると思う状態や病気（罹患状況別）

- CKDになるとリスクが上がると思う状態や病気の中で、自身の病気や状態を選択できた患者さんは27%だった
（「血圧が上がる」を選んだ高血圧症患者さん27%、「心臓の病気になる」を選んだ心疾患患者さん27%、「脳卒中など脳の病気になる」を選んだ脳卒中患者さん20%）

Q.慢性腎臓病（CKD）になるとリスクが上がると思う状態や病気について、あてはまるものをすべて選択してください。（回答はいくつでも） n=865

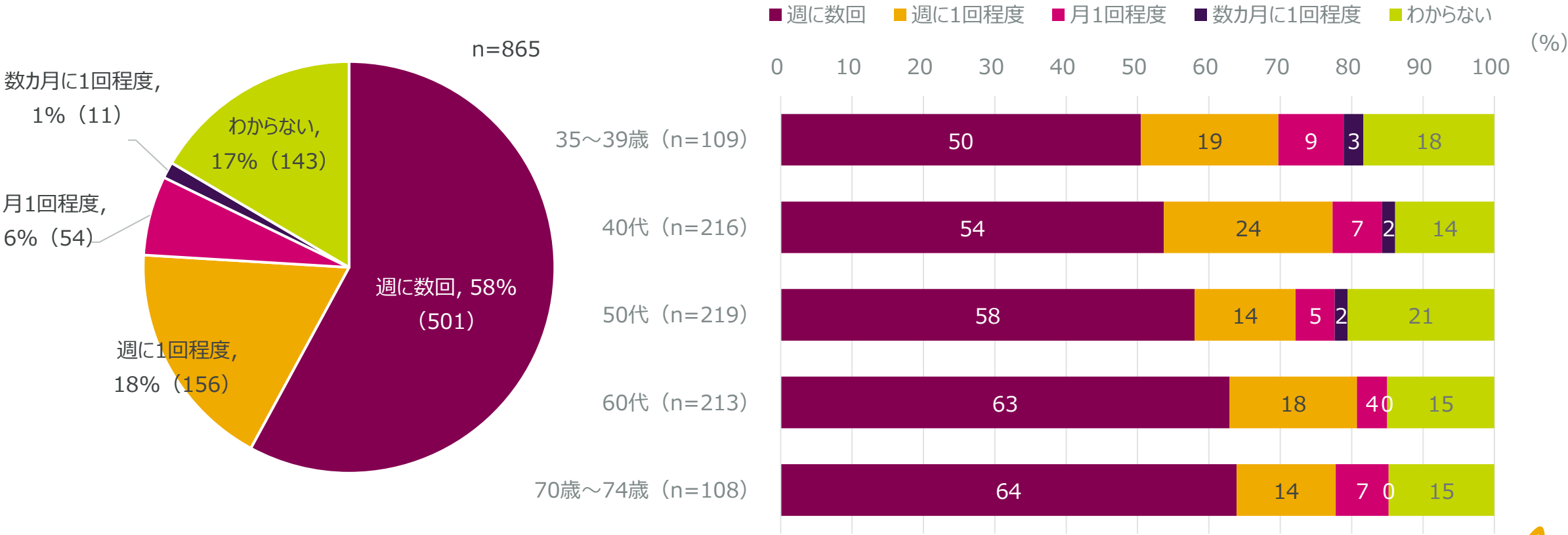


* 複数の疾患に罹患している患者さんの回答は、疾患ごとに1サンプルとして集計した。各疾患のサンプル数とそのうち単独罹患数【サンプル数（単独罹患数）：CKD150（59）、高血圧症629（451）、糖尿病196（98）、心疾患97（50）、脳卒中41（11）】

人工透析で透析施設に通うと思う頻度

- 人工透析で透析施設に通うと思う頻度では、「週に数回」と回答した人の割合が58%で最も高かった。一方で、週1回程度かそれ以下の頻度（「週に1回程度」「月1回程度」「数カ月に1回程度」）と回答した人が25%、「わからない」は17%だった
- 年代別にみると、「週に数回」と回答した人の割合は若齢になるほど低く、最も低かったのは35～39歳の51%だった

Q. 人工透析（血液透析）を受ける場合、どのくらいの頻度で透析施設に通う必要があると思いますか。最もあてはまるものをお選びください。（回答はひとつ）



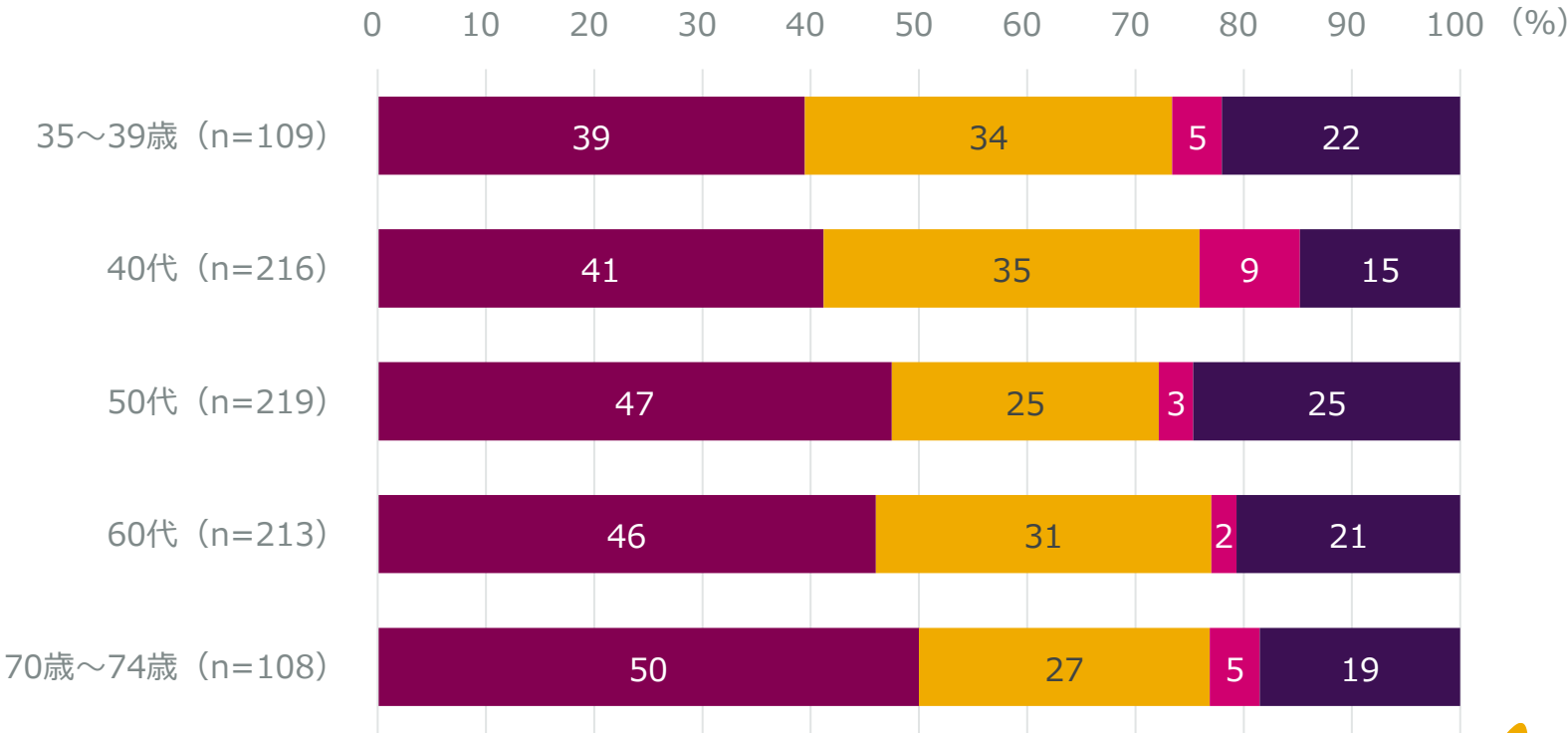
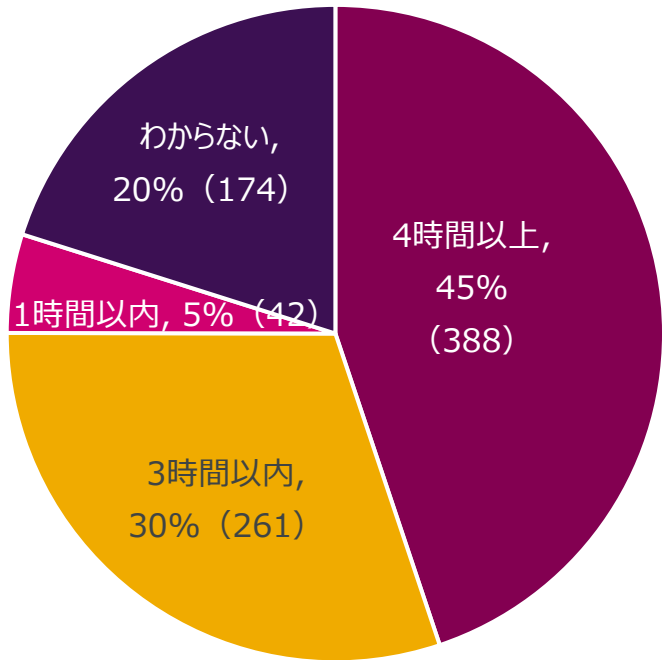
人工透析で1回の治療にかかると思う時間

- 人工透析で1回の治療にかかると思う時間では、「4時間以上」と回答した人の割合が45%で最も高かった。一方で、「わからない」を選択した人は20%、「1時間以内」は5%だった
- 年代別にみると、「4時間以上」の割合は60代を除いて若齢になるほど低く、最も低かったのは35～39歳の39%だった

Q.人工透析（血液透析）を受ける場合、1回の治療にはどのくらいの時間がかかりますか。最もあてはまるものをお選びください。（回答はひとつ）

■ 4時間以上 ■ 3時間以内 ■ 1時間以内 ■ わからない

n=865



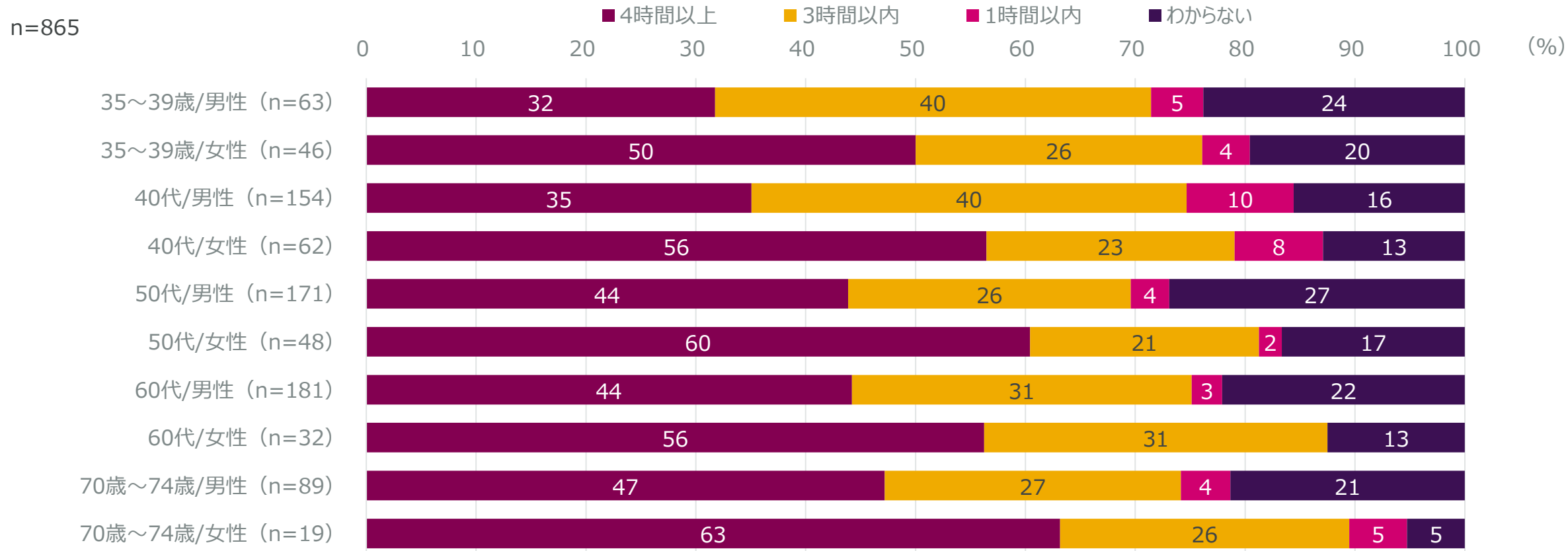
※n<30の箇所(*)は参考値



人工透析で1回の治療にかかると思う時間（年代・性別別）

- 人工透析で1回の治療にかかると思う時間として「4時間以上」を選んだ人の割合は、35～39歳男性の32%が最も低かった
- 「4時間以上」を選んだ人の割合は、全年齢において男性より女性で高かった

Q.人工透析（血液透析）を受ける場合、1回の治療にはどのくらいの時間がかかりますか。最もあてはまるものをお選びください。（回答はひとつ）



※n<30の箇所(*)は参考値

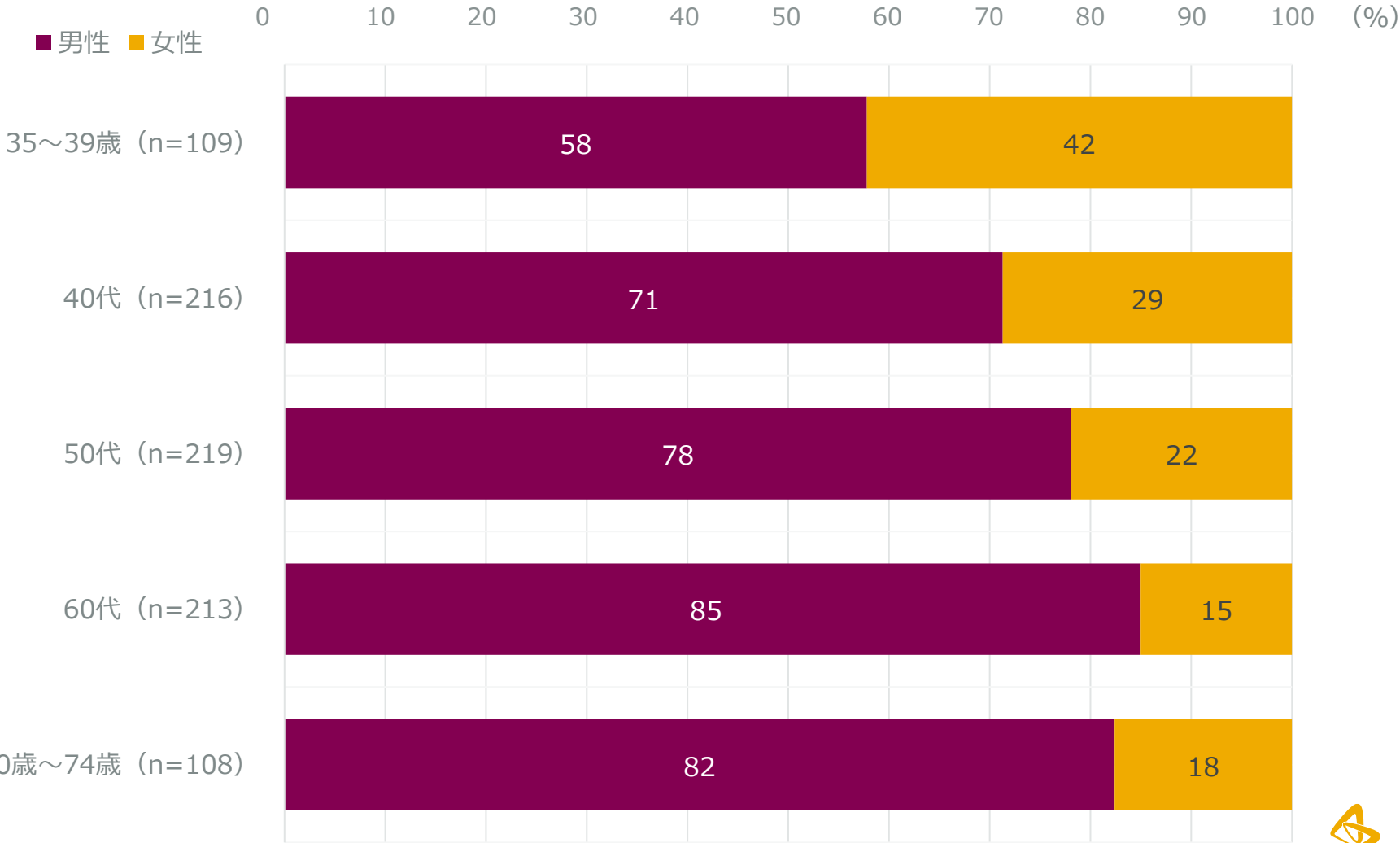
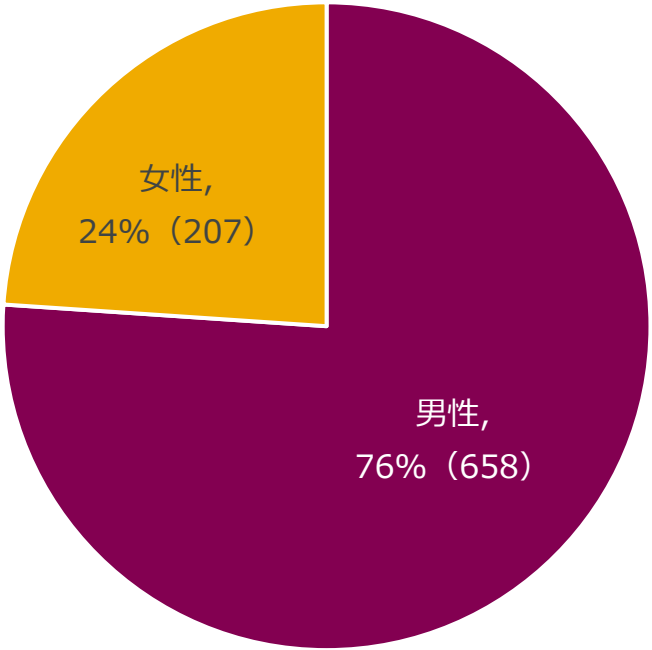


回答者プロフィール



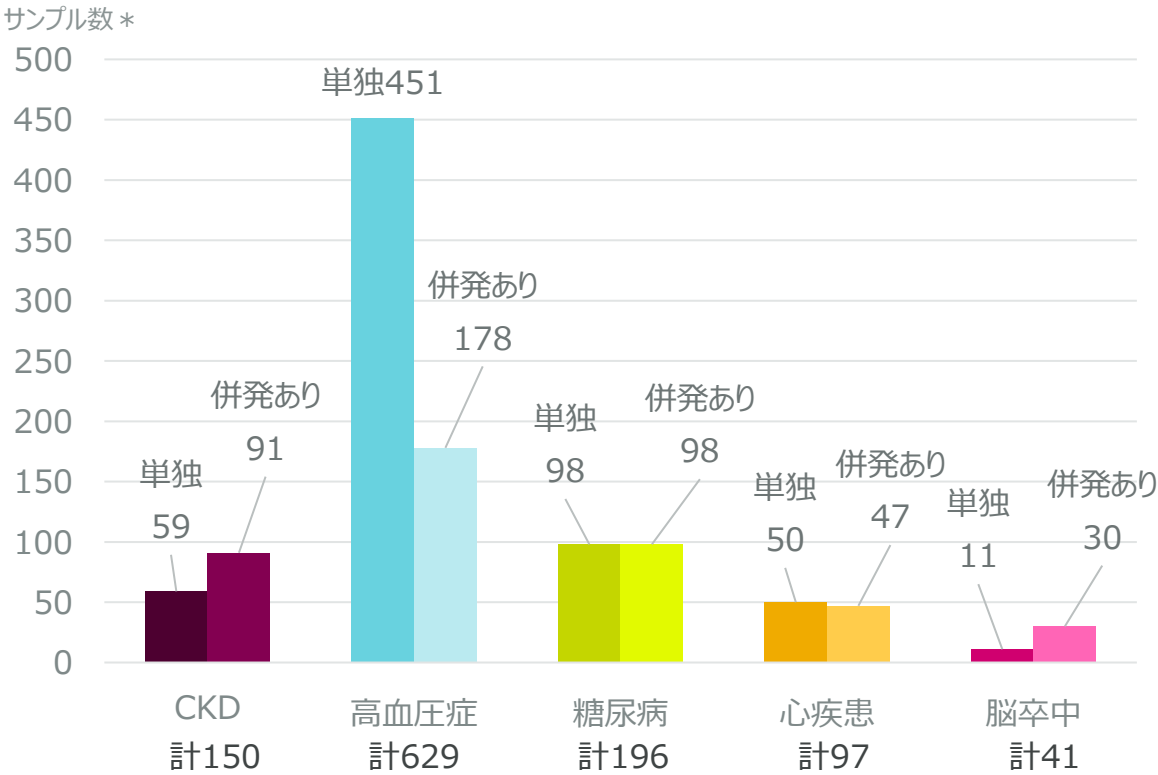
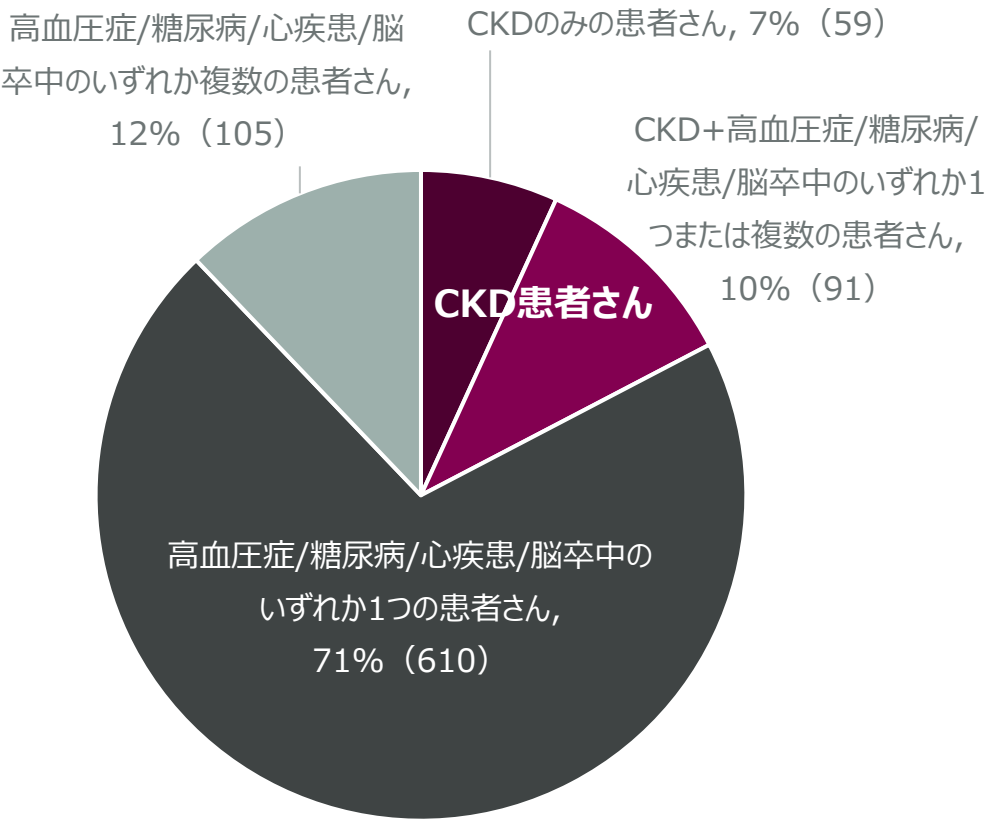
性別

n=865



罹患状況

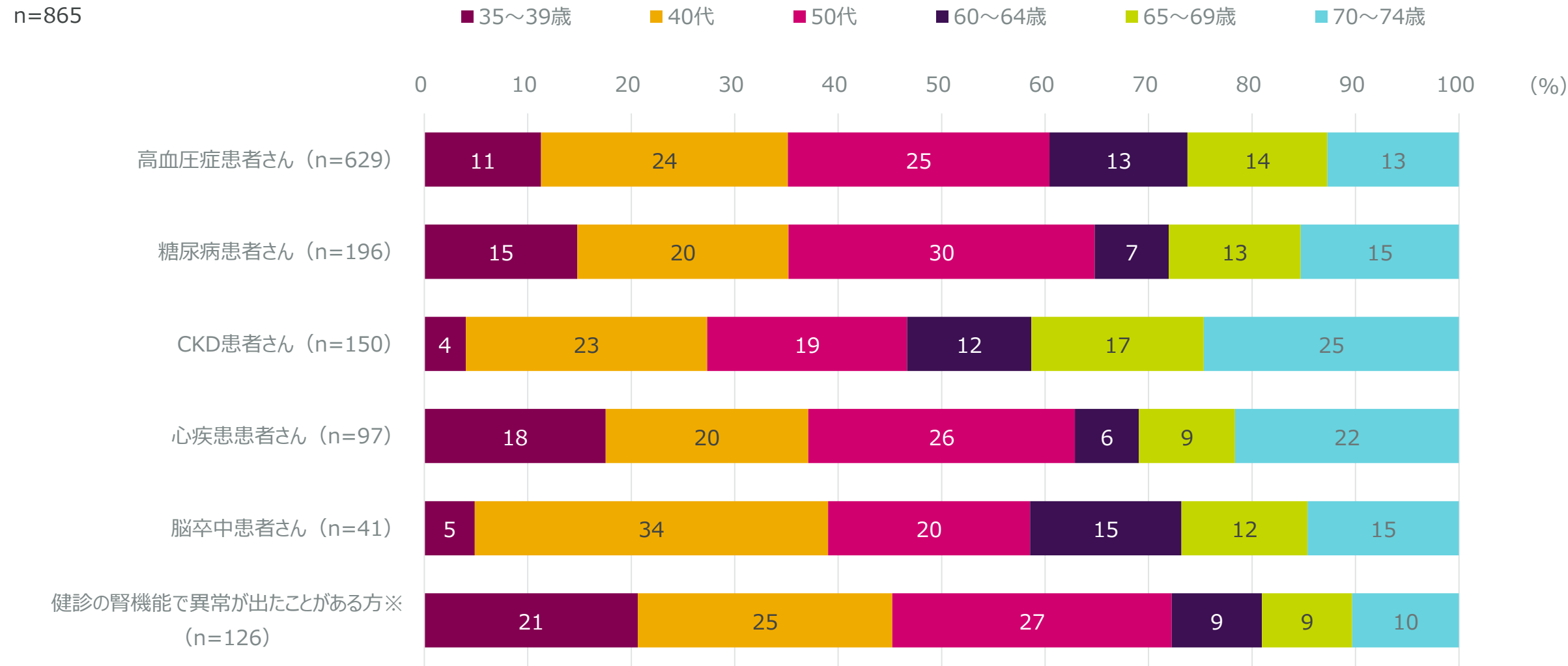
n=865



*CKD、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳卒中の5疾患のうち、複数の疾患に罹患している患者さんの回答は、疾患ごとに1サンプルとして集計した。



罹患状況（年代構成）



※CKDではないと回答した方のうち、健康診断で腎機能検査の結果に異常が出たことがあると回答した方（腎機能検査の異常：血液検査でeGFR（イージーエフアール）値が59以下、または血清クレアチニン値（Cr）が男性1.2mg/dl超、女性1.0mg/dl超、または尿検査で尿蛋白が陽性（1+/2+/3+）



勤務形態

Q.あなたの勤務形態について、最もあてはまるものをお知らせください。（回答はひとつ）

n=865

- 会社員（正社員）

■ 自営業

■ パート・アルバイト

■ 主婦・主夫

■ 定年退職（退職後パート・アルバイト等で就業中の方を含む）
- 契約社員・派遣社員

■ 公務員

■ 学生

■ 無職

■ その他

